

# 第36回 廃棄物資源循環学会研究発表会 参加案内

2025年9月17日(水)～19日(金)

東海国立大学機構名古屋大学東山キャンパス

主催：一般社団法人廃棄物資源循環学会

## 目次

- 第36回廃棄物資源循環学会研究発表会の開催にあたって
- 開催行事一覧
- 行事案内
  - 特別プログラム
  - 国際シンポジウム・International Symposium
  - 研究発表(口頭発表・ポスター発表・International Session)
  - 企画セッション
  - 市民展示・環境学習施設展示(一般公開・無料)
  - 市民フォーラム・環境学習フォーラム(一般公開・無料)
  - 協賛企業・団体等展示(一般公開・無料)
  - 施設見学会
  - 全国環境研協議会研究発表会
  - 意見交換会
- 参加申込方法
- 発表ガイドライン
- 協賛企業団体
- 会場へのアクセス・会場案内図
- タイムテーブル
- 実行委員会名簿

## ～ 注意事項 ～

### 開催形式

- ハイブリッド方式(現地参加・オンライン参加の併用)で開催いたします。

### 現地参加者の参加証

- オンラインで参加申込(事前・通常)された方が現地参加される際は、**参加証をA4印刷し、点線に沿って切り取ってご持参**ください。
- 受付にホルダーを用意しますので、会期中は参加証の着用をお願いします(事前郵送しません。)

### 参加案内

- 研究発表会専用ページからのダウンロード(PDFファイル)のみとなります。また、参加案内の情報は随時更新されますので、最新情報は専用ページにてご確認ください。
- 研究発表会専用ページ：<https://jsmcwm.or.jp/taikai2025/>

### 電子版講演原稿・オンライン参加用URL

- 講演原稿は研究発表会専用ページからのダウンロード(PDF)のみとなります。CD-ROM版は作成せず、会場での印刷物の配布も行いません。
- オンラインで参加申込された方には、電子版講演原稿の閲覧パスワード及びオンライン参加用URLをメールでお知らせします。
- 現地にて参加登録される方には、当日受付時に電子版講演原稿の閲覧パスワード及びオンライン参加用URLへのアクセス方法をお伝えします。

### 緊急連絡先等

- 台風や地震等の緊急時における研究発表会開催の可否等については、上記の研究発表会専用ページでお知らせします。
- 緊急時において、学会事務局への問い合わせはつながりにくくなることが予想されますのでお控えください。

### 【連絡先】

廃棄物資源循環学会事務局：Tel. 03-3769-5099 またはメール[\[jimu@jsmcwm.or.jp\]](mailto:jimu@jsmcwm.or.jp)

## 研究発表会に関する注意事項

- 発表用スライドの提出は参加登録システム（Confit）を利用します。締め切りは **9/9(火)17:00** です。
  - 全ての口頭発表者（現地発表・オンライン発表・International Session）は、**発表ファイルを事前に提出**してください。
  - 発表ファイル形式は、.pptx(Microsoft office 2024 で動作するもの)または.pdf としてください。
  - 発表者のメールアドレスに Zoom の URL をご案内します。上記の時間帯に URL にアクセスしてください。Zoom での表示名を「講演番号ー氏名（所属）」としてください（例：A1-7-Oー廃棄物太郎(循環)）。
  - 発表当日の提出・動作確認は受け付けられない場合があります。

## 会場に関する注意事項

- 発表会場でのネットワーク接続に関する注意事項
  - 各会場ではeduroam、および、名古屋大学の提供する無線LANに接続可能です。
  - eduroam参加機関（<https://www.eduroam.jp/participants/siteinfo.html>）にご所属の方は、eduroamを優先的にご利用ください。
  - eduroamの利用が難しい場合は、名古屋大学の提供する無線LANが利用可能です。会場受付で接続情報をご確認ください。
  - プログラム・要旨集などは事前にダウンロードしていただくことをお願いいたします。
- 喫煙場所
  - 名古屋大学東山キャンパスは令和6年5月21日より全面禁煙になりました。指定喫煙場所はありません。ご協力をよろしくお願いします。

## 第36回 廃棄物資源循環学会研究発表会の開催にあたって

第36回 廃棄物資源循環学会研究発表会  
実行委員会委員長  
名古屋大学 平山 修久

第36回廃棄物資源循環学会研究発表会を東海・北陸支部により愛知県名古屋市で開催するにあたり、実行委員会を代表して皆様のご参加を心より歓迎申し上げます。東海北陸地域では、これまで4回の研究発表会を開催してきました。名古屋市での開催は第9回（1998年）、第20回（2009年）、第29回（2018年）に続く4回目となります。今大会は、前回大会に引き続き、平常時の発表会形式により開催する研究発表会となります。今回の研究発表会の会場は、特別プログラムの名古屋大学豊田講堂とともに、名古屋大学東山キャンパスの中心に位置する地下鉄名城線名古屋大学駅に隣接したIB電子情報館と、2020年、2023年に竣工したオークマ工作機械工学館、EI創発工学館と、大変利便性が良い会場となっています。

2025年は戦後80年にあたり、この地域においては、1945年三河地震から80年、伊勢湾台風から66年、2000年東海豪雨から25年であり、2024年能登半島地震から20ヶ月となります。2025年3月には、新たな南海トラフ地震の被害想定が示され、この10年間、鋭意、防災対策が進められてきましたが、それでも不十分であることが明らかになりました。複合連淹災害となった2024年1月能登半島地震、2024年9月能登半島豪雨からの復旧復興を支援するとともに、来る国難災害に備えて経験を学ぶことが大切です。

20年前の2005年には、自然の叡知をテーマとし、121カ国4国際機関が参加した愛・地球博（2005年日本国際博覧会）が愛知県で開催されました。人と自然との共存を目指し、サブテーマのひとつに循環型社会が掲げられました。約2204万人が参加し、この20年間の資源循環型社会構築の取り組みにつながっています。愛知県は、我が国の製造品出荷額等330兆円のうち約14%の約48兆円を占めるものづくりの一大拠点であることから、今回の大会では、「自然の叡知、ものづくりから持続可能な資源循環社会を共創する」というテーマを掲げさせていただきました。自然の叡知やものづくりという視点から、自然災害、気候変動や人口減少社会などの外的環境要因に対しても持続可能な資源循環社会をどのように実現するのかについて、研究者、行政、民間、市民で共有し、連携する場となることを目指してさまざまな企画を致しました。

名古屋大学のシンボルである豊田講堂で実施する特別プログラムでは、石川県珠洲市副市長の金田直之氏から特別講演「能登半島地震から20ヶ月の現在地」、元愛知県副知事の稲垣隆司岐阜薬科大学名誉教授から特別講演「愛知万博における環境保全対策とその成果の継承・発展」を企画しています。意見交換会では、なごやめしなどの地元の新鮮な素材を使った食事と飲物とともに、石川県能登地方の飲物を楽しみながら、有益な意見交換会となるよう準備しております。

今回の研究発表会が皆様にとって有意義な場となりますことを実行委員一同祈念して、多くの会員、関係各位のご参加を心よりお願い申し上げます。

## 開催行事一覧

行 事		日 時 (全て9月)	会 場 東海国立大学機構名古屋大学 東山キャンパス内	備 考
特別プログラム		18日(木) 14:30～17:40	豊田講堂	一般公開・無料
国際シンポジウム		17日(水) 13:00～15:00	第6会場 オークマ工作機械工学館 2F 講義室	使用言語: 英語
研究 発 表	口頭発表	17日(水)、18日(木)	第1～5, 第7会場 IB 電子情報館 中棟 1F IB011, IB013, IB014, IB 電子情報館 東棟 2F 大講義室, オークマ工作機械工学館 1F ホール, EI創発工学館 2F EI021	発表 10 分間 + 質疑応答 5 分間
	ポスター発表	17日(水)、18日(木)	IB 電子情報館 中棟 1F 廊下	
企画セッション		18日(木)、19日(金)	第2～4, 第6会場 IB 電子情報館 中棟 1F IB013, IB014, IB 電子情報館 東棟 2F 大講義室, オークマ工作機械工学館 2F 講義室	研究部会・若手の 会企画
市民展示・環境学習施設 展示		17日(水)、18日(木)	EI創発工学館 2F EI023	一般公開・無料
企画フォーラム (環境学習フォーラム、 市民フォーラム)		17日(水)、18日(木)	第6会場 オークマ工作機械工学館 2F 講義室	一般公開・無料
協賛企業・団体等展示		17日(水)、18日(木)	EI創発工学館 2F EI022	一般公開・無料
全国環境研協議会 研究発表会		19日(金) 午前	第1会場 IB 電子情報館 中棟 1F IB011	
意見交換会		18日(木) 18:00～20:00	豊田講堂アトリウム・シンポジオン	要事前申込・参加 費

【施設見学会】(いずれのコースも昼食の準備はありません。飲み物や昼食などは各自でご持参ください。)

開催日：9月19日(金)

第1コース(終日/定員40名/参加費4,000円)

【化石燃料活用事例施設コース】

(訪問先：武豊火力発電所、東部知多クリーンセンター)

8：30 名古屋大学豊田講堂前集合 JR名古屋駅前解散(17：30予定)

第2コース(午後半日/定員20名/参加費3,500円)

【西知多クリーンセンター見学コース】

(訪問先：西知多クリーンセンター)

12:30 名古屋大学豊田講堂前集合 JR名古屋駅前解散(16：30予定)



## 第36回

# 廃棄物資源循環学会 研究発表会 特別プログラム



テーマ：「人づくり」と「ものづくり」に配慮した持続可能な資源循環の構築  
～人の技術力と、地域社会が連携し、持続可能な発展を実現する～

日時：2025年9月18日(木)14:30～17:40

場所：東海国立大学機構 名古屋大学 豊田講堂

- プログラム：1. 開会のあいさつ  
2. 特別講演①「能登半島地震から“20ヶ月”の現在地」  
3. 特別講演②「愛知万博における環境保全対策とその成果の継承・発展」  
4. 愛・地球博記念公園の見どころ  
5. 閉会のあいさつ

主催：一般社団法人 廃棄物資源循環学会 (特別プログラム企画：東海・北陸支部)

共催：名古屋大学大学院工学研究科、名古屋大学大学院環境学研究科、名古屋大学未来材料・システム研究所、名古屋大学減災連携研究センター、国際連合地域開発センター(UNCRD)、中日新聞社

後援：愛知県、名古屋市

## 特別講演①

講師 : 金田 直之 氏 (珠洲市副市長)

題目 : 能登半島地震から“20ヶ月”の現在地

### <概要>

珠洲市では、2024年能登半島地震では死者176名の人的被害が生じており、建物被害では全壊率30%超、半壊以上は70%の被害が生じた。さらに、9月21日の奥能登豪雨災害でも死者4名の被害が生じている。能登半島地震から20ヶ月が経過し、圧倒的なヒト、モノ、カネでの応急復旧から、慢性的不足のヒト、モノで対応せざるを得ない本復旧に移行してきている。復旧、復興のスピード感が問われる中、「適正な創造的復興のかたち」と「迅速な災害からの復旧・復興」の狭間で人口減少と超高齢化の現実が突き付けられる。そのような課題のなか、水循環のオフグリッド化、奥能登版デジタルライフライン、スズレコードセンターなどの最先端技術、アートによる被災地の創造的復興の取り組みを進めている。安全・安心のハード復旧の迅速な実施とともに、地域が「前を向く」ための伝統文化の復興について講演する。

### <講師紹介>

#### 金田 直之 氏

1980年(昭和55年)	金沢大学工学部建設工学科卒
1982年(昭和57年)	珠洲市役所入庁(建設課)
2009年(平成21年)	企画財政課長 兼務自然共生室長、まちづくり相談室長 奥能登国際芸術祭推進室長 能登SDGsラボ事務局長
2022年(令和4年)	退職(3月) 珠洲市副市長就任(6月)



#### その他行政以外の役職等

NP0 法人能登半島おらっちゃんの里山里海副理事長  
一般社団法人 サポートスズ 専務理事  
一般社団法人すずバス代表理事

## 特別講演②

講師：稲垣 隆司（岐阜薬科大学名誉教授・元愛知県副知事）

題目：愛知万博における環境保全対策とその成果の継承・発展

### <概要>

自然を叡智としたテーマで開催された愛知万博においては、グローバル・ループ等自然に配慮した会場づくりや会場で発生する廃棄物の分別収集の徹底、バイオマス食器の利用、燃料電池バス等環境に優しい乗り物の採用など様々な環境保全対策が実施された。

愛知万博終了後はその成果が広く県民の皆様に普及し、県民一人ひとりが高い環境意識を持って環境配慮行動をするとともに、モリコロ基金の創設や愛知県産業廃棄物税制度の導入、更には COP10 や ESD 世界会議の開催など様々な取組が着実に実施されたことにより、SDG s 達成に向け環境を原動力に経済・社会が総合的に向上する「環境首都あいち」の形成が図られている。

なお、このように愛知万博の成功とその後の「環境首都あいち」の形成が着実に実施されている背景には「藤前干潟の保全の取組」や「海上の森の保全と愛知万博の会場の変更」という関係者・県民の方々の努力と英断・理解があったことを忘れてはならない。

今後は、「環境首都あいち」の着実な形成を図るため、産官学市民が力を合わせ、資源循環社会の形成（あいちサーキュラーエコノミー推進プラン）、地球温暖化対策（「カーボンニュートラル愛知」の実現）、生物多様性の保全（愛知ターゲット等）を着実に実施していく必要がある。

### <講師紹介>

#### 稲垣 隆司 氏

1968 年(昭和 43 年)	岐阜薬科大学卒
1969 年(昭和 44 年)	国立公衆衛生院 (現・国立保健医療科学院) 修了
1970 年(昭和 45 年)	愛知県に入庁
2004 年(平成 16 年)	環境部長
2006 年(平成 18 年)	愛知県副知事就任
2010 年(平成 22 年)	名古屋競馬株式会社代表取締役社長
2012 年(平成 24 年)	名古屋学院大学理事長
2015 年(平成 27 年)	岐阜薬科大学学長（現在は岐阜薬科大学名誉教授）



その他の役職について、中央環境審議会委員等のほか、現在は環境省行政事業レビュー外部有識者委員、環境省環境回復検討会委員、中部行政評価局行政改善推進会議委員等を歴任

**国際シンポジウム**  
**(一般公開・無料 ※一般参加者は要事前申込)**

持続可能な自動車リサイクル：循環型経済の実現に向けて  
**Sustainable Automotive Recycling: Driving Toward a Circular Economy**  
9月17日(水)13:00 – 15:00 ハイブリッド(第6会場およびZoomミーティング)  
**September 17<sup>th</sup> (Wed) 13:00 – 15:00 (JST) Onsite and Zoom meeting**

脱炭素社会と循環経済の実現に向けた技術開発やビジネス育成が国際的に求められている。自動車のリサイクルにおいても、従来から行われてきたリサイクルや適正処理に加えて、素材・部品の再使用やアップサイクルなどの仕組みづくりが重要になってきている。本シンポジウムでは、循環経済の構築という観点から、自動車の製品や部品の持続可能な利用や資源循環をテーマとして日本、韓国、台湾、東南アジアにおける自動車業界、リサイクル業界、研究者、シンクタンクといったキーパーソンを集め、アジアにおける自動車リサイクルに関する取組や将来的な方向性について議論する。

The international demand for technological and business development is growing, aimed at realizing a decarbonized society and circular economy. In the case of automotive recycling, in addition to the traditional recycling and appropriate waste management, it is becoming increasingly important to create systems for the reuse and upcycling of materials and parts. This international symposium will bring together key figures from the automotive industry, recycling industry, a researcher, and a think tank in Japan, Korea, Taiwan, and Southeast Asia to discuss the sustainable use and resource circulation of automotive products and parts from the perspective of building a circular economy, and will discuss the initiatives and future direction of automotive recycling in Asia.

**使用言語:** 英語

**Language:** English

**場所:** 名古屋大学 東山キャンパス オークマ工作機械工学館2F 講義室 (第6会場)

**Venue:** Lecture room on the second floor, Okuma Machine Tool Engineering Building,  
Higashiyama Campus, Nagoya University

**Facilitator**

Dr. Yasuhiko Hotta (Institute for Global Environmental Strategies, Japan)

**Opening Remarks**

Prof. Reiko Sodeno (Chair of International Committee, JSMCWM)

**Speakers and Topics**

Dr. Mika Kunieda (Toyota Motor Corporation, Japan)  
Toyota's Initiatives towards a Circular Economy

Dr. Michael J. Lee (Kyung Hee University, Korea)  
Transforming Waste into Power: Next-Generation High-Energy Batteries via Recycling and Upcycling

Ms. Vivienne Wang (Resource Circulation Industry Booster Association, Taiwan)  
Disposal to Renewal: Taiwan's Sustainable Development Model for End-of-Life Vehicle Recycling  
— A Case Study from Green Environment Engineering Incorporation

Dr. Fusanori Iwasaki, Mr. Reo Kawamura, and Mr. Michikazu Kojima (Economic Research Institute for ASEAN and East Asia)  
Current Status and Challenges of Proper Management of Automobiles in the ASEAN region

**Closing Remarks**

Closing speech by Prof. Jae Hac Ko, Chair of the International Committee, KSWM

※発表内容等は変更になる場合があります。

※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

## 研究発表（口頭発表・ポスター発表）

発表予定件数：289編（口頭発表：180編、ポスター発表：109編）

※ポスター発表は、1日目(Poster1)と2日目(Poster2)に開催されます。

ポスター発表 会場：IB 電子情報館 中棟 1F 廊下

Poster1: 9月17日(水) 17:00 - 18:15 / Poster2: 9月18日(木) 13:00 - 14:15

### A1 ごみ発生・排出抑制 【18(木) 9:00-10:30 第7会場】

座長：岡山朋子（大正大学）

副座長：渡辺浩平（帝京大学）

- |                 |  |      |
|-----------------|--|------|
| A1-1-O          | コロナ禍以降におけるごみ量の変化ー集団回収への影響ー   | p.1  |
|                 | 国立環境研究所 ○河井紘輔, 多島良, 石垣智基, 山田正人   |      |
| A1-2-O          | 一般廃棄物の排出量・リサイクル率の決定要因ーハイブリッド・パネルデータ分析の適用   | p.3  |
|                 | 立命館大学 ○笹尾俊明  |      |
| A1-3-O          | 記名式ごみ収集袋を用いたナッジ効果に関する実証研究  | p.5  |
|                 | 近畿大学 ○石村雄一, 山梨英和大学 野村魁   |      |
| A1-4-O          | 亀岡市「川と海つながり共創プロジェクト」の形成過程ー多様な地域資本に着目してー  | p.7  |
|                 | 京都府立大学 立山稜真, ○山川肇  |      |
| A1-5-O          | プラスチックごみ等の陸域から河川への流出過程における滞留期間に関する基礎的研究  | p.9  |
|                 | 環境管理センター ○金子紋子, 長谷川亮, 額尔德尼, 九輪環境研究所 三輪芳和, 国立環境研究所 稲葉陸太, 大迫政浩   |      |
| A1-6-O          | 飲食店のテイクアウトにおけるリユース容器シェアサービスの普及状況と可能性   | p.11 |
|                 | 水Do!ネットワーク ○瀬口亮子   |      |
| Poster1 A1-7-P  | 排出段階における合理的な分別方法の構築に関する実験的検討   | p.13 |
|                 | 早稲田大学 ○趙珈慧, 程天顯, 小野田弘士   |      |
| Poster2 A1-8-P  | 行政内部手続きに着目した普及啓発施策の生活系ごみ削減要因の探索(1)   | p.15 |
|                 | 高崎経済大学 ○齊藤由倫   |      |
| Poster1 A1-9-P  | 海岸堆積物中マイクロプラスチック賦存量の評価における方形枠の大きさの影響について   | p.17 |
|                 | 宮崎大学 ○戸敷浩介, 田原隆之介, 石井秀海  |      |
| Poster1 A1-10-P | Effects of Nitrogen Dilution and Silicon Supplementation on NUE, WUE, and Nitrate Concentration in Effluent under Hydroponic Cultivation | p.19 |
|                 | Jeju National University ○Seongtak Yu, Young-Yeol Cho, Min-Kyu Park  |      |

### A2 物質フロー・経済的手法 【17(水) 13:30-15:00 第1会場】

座長：布浦鉄兵（東京大学）

副座長：平井康宏（京都大学）

- |        |  |      |
|--------|--|------|
| A2-1-O | 解体調査に基づく使用済自動車のプラスチック発生量推定                             | p.21 |
|        | 京都大学 ○小坂彰, 矢野順也, 平井康宏, 京都高度技術研究所 高橋正光                  |      |
| A2-2-O | 東京都における家庭からの食品廃棄物及び食品関連プラスチックの排出原単位について                | p.23 |
|        | 東京都環境科学研究所 ○小泉裕靖, 辰市祐久                                 |      |
| A2-3-O | 家庭から排出される未利用プラスチックの把握と有効利用シナリオの提案                      | p.25 |
|        | 富山県立大学 ○佐伯孝, クボタ 柴田徹, 井上繁則, 富山環境整備 今井麻美, 国立環境研究所 大迫政浩  |      |
| A2-4-O | インドネシア・ジャカルタ近郊における廃プラスチックリサイクルの現状調査                    | p.27 |
|        | DOWAエコシステム ○吉村雅仁, 池田浩也, イー・アンド・イー ソリューションズ 野越早希子, 阪口幸三 |      |
| A2-5-O | ごみ削減事業に対する住民評価：日本の事例                                   | p.29 |
|        | 秋田大学 ○熊丸博隆   |      |
| A2-6-O | 北海道における産業廃棄物の処理料金の傾向分析(廃プラスチック類を例に)                    | p.31 |
|        | 北海道立総合研究機構 ○丹羽忍  |      |

### A3 住民意識・環境教育・海外事例 【17(水) 11:00-12:30 第1会場】

座長：花嶋温子（大阪産業大学）

副座長：伊豫田航（JFEエンジニアリング）

- |        |   |      |
|--------|---|------|
| A3-1-O | 導入自治体調査結果からみたアダプト・プログラムの問題点と課題                          | p.33 |
|        | 食品容器環境美化協会 ○佐藤克彦, 荒川クリーンエイド・フォーラム 三輪芳和, 早稲田大学大学院 小笠原正人  |      |
| A3-2-O | 芸術としてのごみで誘発した認知的不調和によるごみの印象改善効果の測定                      | p.35 |
|        | 東京科学大学 ○王波, Gupta Vinayak, 高橋史武                         |      |
| A3-3-O | 学部生向け講義を通じたペットボトル用ごみ箱のデザイン効果の検証(その2)：デザイン効果および設置場所効果の評価 | p.37 |
|        | 東京科学大学 ○高橋史武  |      |
| A3-4-O | 感情心理アプローチによる中国人の購買におけるごみ発生抑制行動を促すー罪悪感と恥の効果の検証ー          | p.39 |
|        | 中央大学総合政策研究科 ○呉文睿  |      |
| A3-5-O | アフリカにおける廃棄物管理分野の日本の国際協力の発展と今後の課題                        | p.41 |
|        | 国際協力機構 ○古賀藍   |      |

※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

A3-6-O	イギリス各自治政府のサーキュラーエコノミー政策の比較分析	早稲田大学 ○板橋千明, 野津喬	p.43
Poster2 A3-7-P	Access-based Consumption in Occasional Fashion: A Case Study on Graduation Ceremony Attire Choice in Institute of Science Tokyo	Institute of Science Tokyo ○Zhihang Hou, Naoya Abe	p.45

#### A4 食品ロス・産業廃棄物・廃棄物の性状 【18(木) 10:45-12:15 第7会場】

座長：山川肇（京都府立大学） 副座長：板橋千明（早稲田大学）

A4-1-O	シェアリングによる規格外野菜の有効活用に関する研究	芝浦工業大学 ○辻本匡秀, 袖野玲子	p.47
A4-2-O	消費者行動の変化による家庭系食品ロス発生量削減効果の推計	京都大学 ○中濱道大, 平井康宏, 矢野順也	p.49
A4-3-O	自動車関連産業における産業廃棄物適正処理に関する取組事例	日本産業廃棄物処理振興センター ○佐々木基了, 藤原博良, 佐々木いづみ	p.51
A4-4-O	深層学習を用いた画像解析による都市ごみ組成分析に関する研究	京都大学 ○牧壮太郎, 本間亮介, 京都先端科学大学 WONGYong Jie, 環境ソルテック 宇野晋, 京都大学 大下和徹, 高岡昌輝	p.53
A4-5-O	廃プラスチックのバイオマス含有率測定における破碎・縮分工程の誤差推定モデルの作成	京都大学 ○東川颯平, 平井康宏, 矢野順也	p.55
A4-6-O	家庭からの食品ロスの削減を支援する介入の社会実験による定量的な効果測定	帝京大学 ○渡辺浩平, 大正大学 岡山朋子, 京都府立大学 山川肇, 瀬田康子, 東京農業大学 野々村真希	p.57
Poster1 A4-7-P	Effect verification of food waste reduction campaign using ID POS data	Okayama University ○Maja Aniela Sutkowska, Yasuhiro Matsui	p.59
Poster2 A4-8-P	一般廃棄物中プラスチックのリサイクル高度化によるマイクロプラスチック環境放出量の評価と削減対策に関する検討	国立環境研究所 ○石垣智基, Panida Payomthip, 北海道大学 Geun-Yong Ham, 国立環境研究所 稲葉陸太, 小口正弘, 山田正人, 大迫政浩	p.61
Poster2 A4-9-P	Spatiotemporal Analysis of Ammonia Emissions and Odor Dispersion Modeling in Intensive Fattening Pig Farms in Jeju, Republic of Korea	Jeju National University Yongguk Ko, Seungjun Oh, ○Hyunjung Lee	p.63

#### B1 廃棄物管理・計画(1) 【17(水) 15:15-16:45 第2会場】

座長：原田浩希（京都大学） 副座長：稲葉陸太（国立環境研究所）

B1-1-O	ごみ拾いを行っているのは誰か？：市民によるごみ回収活動	大阪公立大学 ○片岡海璃, 千葉知世	p.65
B1-2-O	AIを用いたごみピット燻り・発火、処理不適物検知システム	日鉄エンジニアリング ○谷口綾菜, 松山敬太, 栗田雅也	p.67
B1-3-O	小学校社会科におけるごみ処理教育の充実に向けた実践的研究	大阪産業大学 ○花嶋温子	p.69
B1-4-O	地域の資源循環向上に寄与する建築に関する研究	大成建設 ○羽角華奈子, 佐藤大樹, 大久保英也, 井坂匠吾, 相馬智明, 御所園武, 古市理, 慶應義塾大学 荒井将来, 鳥居巧, 田中浩也	p.71
B1-5-O	漁業者による持続的な海洋ごみ回収活動に関する環境経済モデル ～対馬市の事例	九州大学 ○中河原大樹, 中山裕文, 清野聡子	p.73
B1-6-O	高齢者に対するごみ出し支援制度の現状と課題	中央大学 ○篠木幹子, 山形大学 阿部晃士	p.75
Poster1 B1-7-P	ナイジェリア国連邦首都アブジャにおける医療廃棄物の処理方式の検討	八千代エンジニアリング ○濱田善之助, 荒井隆俊, 戸田賢太郎	p.77
Poster1 B1-8-P	Transformative Plastic Governance: Global Typologies and Evaluation Frameworks	Kyoto University ○Tianhui Fan, Gregory Patrick Trencher, Research Institute for Humanity and Nature Misuzu Asari	p.79
Poster2 B1-9-P	脆弱国での廃棄物管理改善の取り組み	八千代エンジニアリング 齋藤正浩, ○佐野洋介, 張多情, 荒井宏侑	p.81
Poster1 B1-10-P	高齢者世帯のごみ出しに関する地域コミュニティの支援意識調査	岡山大学 ○藤原健史, レイス 阿部遼	p.83

#### B2 廃棄物管理・計画(2) 【18(木) 10:45-12:15 第5会場】

座長：稲葉陸太（国立環境研究所） 副座長：近藤晋（応用地質）

B2-1-O	スーパーマーケットの青果品のプラスチック包装に関する研究	大正大学 ○岡山朋子, 鈴木魁人, 上里李空	p.85
B2-2-O	一般廃棄物焼却施設が複数ある地域におけるCO <sub>2</sub> 抑制に配慮した収集運搬計画の支援	福島大学 ○蛭田竜矢, 樋口良之, 三菱重工環境・化学エンジニアリング 中川征己, 原田朋弘, 岡本直樹	p.87
B2-3-O	Estimation of environmental impacts of increased bioplastic packaging considering waste management options in the world	Hokkaido University ○Kotone Iwamoto, Kazuei Ishii, Geun-Yong Ham, Satoru Ochiai, Jumana Al-Mallahi	p.89



※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

B2-4-O	Enhance the Prediction of Plastic Waste Collection Demand for Hospital by Monitoring its Users Shizuoka University of Art and Culture ○Richao Cong, University of Kitkyushu Atsushi Fujiyama, Toru Matsumoto	p.91
B2-5-O	Waste Pickers' Preferences on Life Aspects: A case study of 2 landfill sites in Indonesia Institute of Science Tokyo ○Radhitiya Al Furqan, Institut Teknologi Bandung Elprida Agustina, Institute of Science Tokyo Naoya Abe	p.93
B2-6-O	プラスチック資源等の分別に伴うごみ処理システムの評価(その2) 復建調査設計 ○三上貴士, 井上陽仁, 鳥取中部ふるさと広域連合 上田智幸, 宮本大樹	p.95
Poster2 B2-7-P	プラスチック一括収集への協力行動意図の規定因の検討——制度導入状況による比較—— 南山大学 ○前田洋枝	p.97
Poster2 B2-8-P	The Sid Model for Municipal Participation in a Regional Waste Management System in Serbia Kokusai Kogyo Co., Ltd. ○Chiaki Nishi, Hideo Sato, Noriko Otsuki, IMG Inc. Gantumur Burneebaatar, Susumu Shimura	p.99
Poster1 B2-9-P	大学におけるファッションロス削減の取り組み 大正大学 ○岡山朋子, 関和史	p.101
Poster1 B2-10-P	Impact of the COVID-19 Pandemic on Performance of Waste Banks in Indonesia University of Miyazaki ○Satwika Desantina Muktiningsih, Tomoo Sekito, Yutaka Dote	p.103

**B3 災害廃棄物の管理・計画** 【18(木) 9:00-10:30 第5会場】

座長：田畑智博（神戸大学） 副座長：佐伯孝（富山県立大学）

B3-1-O	住宅耐震化による災害廃棄物発生量の削減効果 ～南海トラフ巨大地震における地震動及び津波を考慮した評価～ 立命館大学 ○盛本怜太郎, 橋本征二	p.105
B3-2-O	災害廃棄物処理実績データの整備に関する研究 国立環境研究所 ○多島良, 兎澤佳南, 鈴木薫	p.107
B3-3-O	首都直下地震を想定したマンションにおける 片付けごみ等対策の必要性について 熊本市 ○竹本啓助, 建築研究所 片山耕治, 政策研究大学院大学 室田哲男	p.109
B3-4-O	中古品を災害時の支援物資として活用する官民連携の取り組みについて 一橋大学大学院 ○大和田誠太郎	p.111
B3-5-O	廃棄物組成推計に用いる近赤外線領域スペクトル情報のハロゲンランプ補光による変化 大成建設 ○橋本宏治, 宮田涼平, 大久保英也, パスコ 佐藤俊明	p.113
B3-6-O	ウクライナの戦災によって発生した瓦礫の適正処理について 国際協力機構 ○吉田充夫, 日本工営 副田俊吾, 国際協力機構 柴田和直	p.115
Poster2 B3-7-P	災害廃棄物処理に関する住民とボランティアの意識調査 神戸大学 ○韓一琳, 田畑智博	p.117

**B4 ごみ文化・歴史** 【17(水) 13:30-15:00 第2会場】

座長：小林正自郎（JFEエンジニアリング） 副座長：松田由美（タクマ）

B4-1-O	バングラデシュ国ダッカ市で開催された廃棄物処理セミナーに関して 廃棄物処理改善技術協力プロジェクトの支援記録 タクマ ○長岡耕平, 東洋大学 石井明男	p.119
B4-2-O	絵葉書の中の塵芥焼却場 ○山崎達雄	p.121
B4-3-O	技術協力における廃棄物処理プロジェクトへの自己組織化が及ぼす影響の研究 — 情報エントロピーによるプロジェクトの評価 — 東洋大学 ○石井明男, (株)タクマ 長岡耕平	p.123
B4-4-O	清掃事業における直営化の意義—八王子市の事例から— 八王子自治研究センター ○中川和郎	p.125
B4-5-O	シンガポールの衣料品回収チャネルの多様性 東京聖栄大学 ○横沢泰志	p.127
B4-6-O	1960-70年代の米国におけるCircular Economy及びRecycle概念の形成と変容 ○古澤康夫	p.129

**B5 LCA・低炭素社会** 【17(水) 15:15-16:45 第5会場】

座長：石井一英（北海道大学） 副座長：齋藤優子（東北大学）

B5-1-O	非エネルギー起源排出項目を追加した下水道部門における温室効果ガス排出量の再推計 大阪大学 ○石井七海, 中久保豊彦, 東海明宏, 京都大学 大下和徹	p.131
B5-2-O	Waste and Circularity Indicators in Circular Economy Monitoring Frameworks: A Comparative International Review Korea Environment Institute ○Hye Sook Lim, Sora Yi, Inchul Go	p.133
B5-3-O	焼却飛灰の団粒による2 mmふるい残留分の潜在的なCO <sub>2</sub> 固定化容量評価の考察 早稲田大学 ○川邊駿, 小峯秀雄, 鈴木陽也, 茨城大学 伊藤大知, ミダックホールディングス 鈴木清彦, 國弘彩, ミダック 疋田貴大, 山崎拓	p.135

※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

B5-4-O	低品位プラスチックの有効利用を可能とする一般廃棄物焼却残渣および不燃残渣の溶融分離システムに関するLCA	p.137
	九州大学 ○河上秀太, 中山裕文, クボタ 柴田徹, 井上繁則, 国立環境研究所 大迫政浩	
B5-5-O	リアルタイムCO <sub>2</sub> 排出係数に基づく再エネ発電の最適制御技術開発	p.139
	神鋼環境ソリューション ○立見友幸, 砂田浩志, 梶原吉郎, 坂田和昭	
B5-6-O	バイオマスSAPの活用を考慮した使用済み紙おむつリサイクルのライフサイクル環境評価	p.141
	北九州市立大学 ○李雅娟, 古賀令花, 松本亨, 藤山淳史	
Poster1 B5-7-P	一般廃棄物焼却施設に着目した2050年におけるCO <sub>2</sub> の空間的需給分析	p.143
	パシフィックコンサルタンツ ○永友佑, 長野尚也, パシフィックコンサルタンツ 井伊亮太	
Poster2 B5-8-P	未利用農業廃棄物の資源循環モデルにおけるライフサイクル評価	p.145
	東京都市大学 ○中本采那, 兵法彩	

## C1 容器包装およびプラスチック(1) 【17(水) 13:30-15:00 第3会場】

座長：齋藤優子（東北大学） 副座長：中谷隼（東京大学）

C1-1-O	フィルム容器の分別回収の仕組みづくり①:総合スーパー業態での店頭回収の検討	p.147
	ライオン ○中川敦仁, 吉田保徳, 増井宏之, 花王 田川直史, 瀬戸啓二, イトーヨーカ堂 花田あやか, 小山遊子	
C1-2-O	フィルム容器の分別回収の仕組みづくり②:ドラッグストア業態での店頭回収の検討	p.149
	花王 ○田川直史, 瀬戸啓二, ライオン 中川敦仁, 吉田保徳, 増井宏之, ウエルシア薬局 小檜山麻美, 長森悦子, ハマキョウレックス 川原千紀	
C1-3-O	しいたけ形成菌用発泡スチロールフタ材の代替としての天然ゴムの生分解性に関する基礎研究	p.151
	鳥取県伯耆町 ○銅山裕之, 公立鳥取環境大学 金相烈	
C1-4-O	未利用の廃プラスチックの都道府県別推計と新リサイクル技術適用シナリオの評価	p.153
	国立環境研究所 ○稲葉陸太, エックス都市研究所 東修, 岡本大作, 小川佳代子, 東京大学 中谷隼, 菊池康紀, 国立環境研究所 山本悠久, 北九州市立大学 藤山淳史, 松本亨	
C1-5-O	色及びシール・ラベルに着目した家庭系一般廃棄物中プラスチックの排出実態調査	p.155
	京都大学 ○山田大智, 矢野順也, 平井康弘	
C1-6-O	プラスチック製容器包装とプラスチック製品の分別収集・再資源化(リサイクル)	p.157
	廃棄物工学研究所 ○田中勝	
Poster1 C1-7-P	ポリオレフィン樹脂のリサイクル回数が長期耐熱性に及ぼす影響	p.159
	三重県工業研究所 ○藪谷祐希, 村山正樹, 西川孝, 森澤諭	
Poster2 C1-8-P	熱分解(Py)GC/MSIによるプラスチック及び添加物の成分分析	p.161
	東京都環境公社東京都環境科学研究所 ○辰市祐久, 小泉裕靖	
Poster1 C1-9-P	容器包装プラスチックと製品プラスチックの排出実態の違い	p.163
	福岡大学 ○鈴木慎也, 佐藤総志, 菊澤育代	

## C2 容器包装およびプラスチック(2) 【17(水) 15:15-16:45 第3会場】

座長：熊谷将吾（東北大学） 副座長：今井麻美（富山環境整備）

C2-1-O	参加型教材「プラのきもちゲーム」の開発と教育的効果の検証	p.165
	総合地球環境学研究所 ○張馨キ, 浅利美鈴	
C2-2-O	フェロニッケル製錬における塩化ビニル(PVC)廃棄物の利用	p.167
	東北大学 ○柏谷悦章, 日本冶金工業㈱ 中山康成, 安田智弘, 野田真人, 神戸雄一	
C2-3-O	スポーツイベントにおける標準的なごみの分別マニュアルの構築と評価手法の研究	p.169
	同志社大学 ○新開郁海, 原田禎夫	
C2-4-O	福岡県における三都市のプラスチック回収システムの比較と循環見える化の検証	p.171
	九州大学 ○近藤加代子, 廖真, 福岡大学 鈴木慎也, 九州大学 早瀬百合子, プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 久保 直紀	
C2-5-O	コンポスト環境における生分解性プラスチックの分解性評価	p.173
	komham ○森本一, 高橋一弘, 西山すの	
C2-6-O	高温水蒸気を用いた廃プラスチックのガス化法の基礎研究	p.175
	長崎総合科学大学 ○中道隆広, 松永好, 熊本県立大学 宮副瑛輝, 石橋康弘, 長崎総合科学大学 村上信明	
Poster2 C2-7-P	再生プラスチック製品の消費拡大に関する調査	p.177
	九州大学 ○近藤加代子, 張宇航, 尾方義人, プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 久保直紀	
Poster1 C2-8-P	非プラスチック被覆材による肥料成分の緩効性評価	p.179
	福島工業高等専門学校 ○大橋和輝, 高橋舞, 勿来まちづくりサポートセンター 長谷川貴士, 館敬, 福島工業高等専門学校 三浦拓也	
Poster2 C2-9-P	Depolymerization of Plastic via Hydrothermal Liquefaction: Influence of Plastic Mixtures	p.181
	University of Seoul ○Sunju Lee, Woori Cho, Seungtaek Lee, Jai-Young Lee	
Poster1 C2-10-P	Numerical Analysis of Particle Behavior Changes According to Cement Kiln Rotation Direction for Stable Operation of CBP System	p.183
	Kongju National University ○Junghwan Im, jimin Jeon, Hyeongtak Ko, Rumduol Sen, Seacheon Oh	
Poster2 C2-11-P	土壌環境中におけるプラスチックの生分解度評価試験に窒素源が与える影響についての研究	p.185
	北海道大学 ○詫間亮太郎, Ham Geun-Yong, 石井一英, 落合知, Jumana Al-Mallahi	



※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

### C3 廃電気電子製品・自動車・電池

【18(木) 9:00-10:15 第2会場】

座長：寺園淳（国立環境研究所）

副座長：秦三和子（エックス都市研究所）

C3-1-O	解体方法別の使用済自動車のプラスチック回収量	p.187
	京都大学 ○矢野順也, 小坂彰, 平井康宏, 京都高度技術研究所 高橋正光	
C3-2-O	RFIDタグを用いたリチウムイオン電池(LIBs)検知システムの社会実装モデルに関する研究	p.189
	九州大学 ○榎原恒治, 相原愛里子, 末廣和樹, 金谷晴一, 中山裕文, 九州環境管理協会 島岡隆行	
C3-3-O	廃棄物処理施設における発火・火災防止対策のためのリチウムイオン電池の安全性評価	p.191
	国立環境研究所 ○寺園淳, 小口正弘	
C3-4-O	熱分解-ガスクロマトグラフィー/質量分析法による太陽電池封止材の劣化評価	p.193
	東北大学 ○中嶋魁心, 熊谷将吾, BorjiginSiqingaowa, PhanthongPatchiya, 齋藤優子, 白鳥寿一, 吉岡敏明	
C3-5-O	熱水抽出による廃リチウムイオン電池ブラックマスからのリチウムの抽出	p.195
	京都大学 ○橋本拓実, 本間亮介, 大下和徹, 塩田憲司, 高岡昌輝	
Poster1 C3-6-P	家電4品目における電気電子機器由来プラスチックおよび含有難燃剤のフロー推計	p.197
	大阪大学 ○西田圭汰, 小口正弘, 中久保豊彦	
Poster2 C3-7-P	廃車由来のリサイクルプラスチック材料の臭気分析と臭気低減対策	p.199
	日産自動車 ○岡崎一也, 伊藤耕太, 平鍋浩範, 杉山雄哉	

### C4 建設廃棄物・副産物

【18(木) 9:00-10:30 第3会場】

座長：中谷隼（東京大学）

副座長：田畑智佑（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

C4-1-O	建設廃プラを用いた工事用バリアードへのマテリアルリサイクル実証と課題把握	p.201
	鹿島建設 ○深津圭佑, 古野間達, 青山和史, 八木熊 西川将司, 竹澤淳貴, 資源循環システムズ 瀧屋直樹	
C4-2-O	建設廃棄物の再資源化の取組(その3) ～建設現場から排出される廃PETの水平リサイクルに向けた啓発効果の検証～	p.203
	大成建設 長谷川由布子, ○松村綾子, 中平淳, 三野香里, コカ・コーラ ボトラーズジャパン 谷口倫一, 大浦直人, 日本通運 筒井将平	
C4-3-O	建設廃棄物の再資源化の取組(その4) ～三角コーンのリサイクルに関する実証試験2～	p.205
	大成建設 ○三野香里, 長谷川由布子, 大久保英也, 八木熊 西川将司, 竹澤淳貴	
C4-4-O	建設廃棄物の地域での資源循環と廃瓦の再生利用	p.207
	産業廃棄物処理事業振興財団 ○山脇敦, エコシステム 高田実, 埼玉県環境科学国際センター 川崎幹生, 先端建設技術センター 新妻弘章	
C4-5-O	再生砕石製造工場におけるコンクリート系廃棄物のCO <sub>2</sub> 固定量に関する全国調査研究	p.209
	北海道大学 ○北垣亮馬, 呉多英, 西日本アチューマツグリーン 蔵本悟, 成友興業 細沼順人, 本多満貴, 増尾リサイクル 細野知之, 山陽工営 大前慶幸, 由芽有三, 宮崎基礎建設 宮崎健治, 宮崎優治, 三共建設 三橋雅之, 勝利商會 下田勝利, 福元孝太	
C4-6-O	再生土をセメント硬化体の骨材として利活用した場合の強度特性	p.211
	弘前大学 ○上原子晶久, 山本友哉, 品川貴志, 大興 小柴俊行	
Poster1 C4-7-P	石膏くず及び土壁材の硫化水素ガス発生試験に関する研究	p.213
	三重県保健環境研究所 ○矢野真弓, 近藤笑加, 三重県紀北地域活性化局 佐藤邦彦, 三重県環境共生局 山川雅弘, 三重県保健環境研究所 巽正志	

### C5 無機性廃棄物・災害廃棄物

【18(木) 10:45-12:15 第3会場】

座長：鈴木慎也（福岡大学）

副座長：鈴木隆央（環境管理センター）

C5-1-O	太陽光パネルのガラス再利用に向けた劣化要因の影響評価とガラス強度推定方法の開発	p.215
	日立製作所 ○宮城雅徳, 川中啓嗣, 阿部和裕, 宮崎克雅, トクヤマ 山下丈晴, 井上大輔, イトーキ 河村匡人, 増見友香	
C5-2-O	廃石膏から無水石膏を高効率に製造する熱処理条件の検討	p.217
	UBE三菱セメント ○丸屋英二	
C5-3-O	流動焙焼炉内の亜鉛焙焼反応挙動	p.219
	名古屋大学大学院 ○中野颯斗, 張慧, 出町豊子, 愛知工業大学 植木保昭, 名古屋大学未来・材料システム研究所 成瀬一郎, DOWAメタルマイン 中川原聡, 井野口康祐, 松浦大	
C5-4-O	ガス検知管に含まれるパラジウムのリサイクル方法の検討について	p.221
	光明理化学工業 ○川村幸嗣, 本間弘明, 松田産業 吉井大介, 酒井悠介	
C5-5-O	廃棄物運搬コンテナへの潤滑剤適用に関する検証(その①)	p.223
	大成建設 ○大久保英也, 三野香里, テクニカ合同 黒木琢也, 藤田洋克, 高矢秀樹	
C5-6-O	廃棄物運搬コンテナへの潤滑剤適用に関する検証(その②)	p.225
	テクニカ合同 ○黒木琢也, 藤田洋克, 高矢秀樹, 大成建設 大久保英也, 三野香里	
Poster2 C5-7-P	廃石膏ボードから回収された石膏の肥料利用に関する基礎的検討	p.227
	宮崎大学 ○関戸知雄, 環境土壌クリニック 神原哲士, 塩川産業 遠藤紘徳, 宮崎大学 土手裕	
Poster1 C5-8-P	浸漬式処理装置を用いたバイオマス焼却灰の無害化実験	p.229
	四日市大学 ○高橋正昭, 武本行正, 岡本土石工業 角忠治, 三重県環境保全事業団 瀬古直樹, 鈴木淳史, 斎藤靖行, 大島彩華, 上野夏奈子	
Poster2 C5-9-P	Sustainable Conversion of SWRO Brine into CaO-MgO Absorbents for Direct Air CO <sub>2</sub> Capture	p.231
	Yonsei University ○Jiwon Myung, Jinwon Park	

※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

C6 食品廃棄物・汚泥・有機性廃棄物 【17(水) 9:30-10:45 第2会場】			座長：小山光彦（長崎大学）	副座長：八代直久（富士クリーン）
C6-1-O	食品廃棄物を燃料とした高炉スラグー堆積物微生物燃料電池の発電性能に及ぼす電極面積の影響	p.233	東京農業大学 ○古谷俊, TOUCHNARONG, 東京都立大学 XIAOXIAO	
C6-2-O	Influence of Aeration Patterns on Mass Balance and Performance Indicators in the Greenhouse-Type Biodrying System	p.235	Hokkaido University ○Katitep Ngamket, Shoki Ida, Geun-Yong Ham, Satoru Ochiai, Kazuei Ishii, Jumana Al-Mallahi	
C6-3-O	もみ殻からのキシロース抽出とセルロースおよびシリカの分離	p.237	埼玉工業大学 龐逸文, 建入賢太, 緑埜彩名, ○本郷照久	
C6-4-O	有機性廃棄物を含む固形化物の臭気特性を評価する簡易な加速試験法	p.239	産業技術総合研究所 ○安田肇	
C6-5-O	塩化揮発法による下水汚泥焼却灰からのリンの選択的分離	p.241	北海道大学 ○望月友貴, 劉佳倩, 坪内直人	
Poster1 C6-6-P	食品廃棄物を燃料とした高炉スラグー堆積物微生物燃料電池のカソード層水の液肥としての利活用	p.243	東京農業大学 ○TOUCHNARONG, 東京都立大学 XIAO XIAO	
Poster1 C6-7-P	バイオプラスチック原料生産のため嫌気性MBRを利用した下水汚泥の酸発酵	p.245	神戸大学 ○吉田弦, 池崎章人, 岡本泰直, 大阪大学 井上大介, 菅原章秀, 神戸大学 井原一高	
Poster1 C6-8-P	Upgrading Fuel Quality of Sewage Sludge Solid Recovered Fuels by Co-mixing with Other Waste and Less Drying Process	p.247	Kyungpook National University ○Sangwoong Jang, Sungyup Jung	
C7 有機性廃棄物 【17(水) 11:00-12:15 第2会場】			座長：中崎清彦（創価大学）	副座長：大門裕之（豊橋技術科学大学）
C7-1-O	資源循環シナリオ構築のための衣類のストック・フローに関する基礎調査	p.249	東京大学大学院 ○鶴田大地, 中谷隼, 山下奈穂, 林徹, 藤田壮	
C7-2-O	有機性廃棄物の急速発酵・乾燥処理のための微生物群の探索と同定	p.251	下瀬微生物研究所 ○下瀬眞一, JET 片山智之	
C7-3-O	Glucose-derived carbon coating on biochar from empty fruit bunches as slow-release P fertilizer	p.253	National Institute for Materials Science ○Endar Hidayat, Sadaki Samitsu	
C7-4-O	Co-pyrolysis of Indonesian Biomass with a Plastic Mixture	p.255	Tohoku University ○Fajar Eko Priyanto, Shogo Kumagai, Patchiya Phanthong, Siqingaowa Borjigin, Yuko Saito, Toshiaki Yoshioka	
C7-5-O	ナガエツルノゲイトウ由来バイオ炭のPFASに対する吸着能の評価	p.257	いであ ○戸張寛子, 谷本祐一, 佐藤健司, 鴨志田公洋, 藤原理沙, 鰐川雅花, 創価大学 久島陽, 鮫島和佳子, 佐藤伸二郎	
Poster2 C7-6-P	A Study on the stabilization of lead contaminated soil with oystershell and monitoring using spectral indices	p.259	University of Seoul ○WOORI CHO, SEUNGTAEK LEE, SUN-JU LEE, JAI-YOUNG LEE	
Poster2 C7-7-P	石鹼スラッジをセメント防水剤にアップサイクルする取り組み	p.261	東京工業高等専門学校 ○岡部継, 五十嵐雅, 岡村咲芭, 秋山禅, 奥崎翔, 田代悠人, 米沢輝, 牛乳石鹼共進社 森元勇樹, 大形広太郎, 寺崎克彦, 江越亮一, 今西豊, 東京工業高等専門学校 伊藤未希雄, 庄司良	
Poster1 C7-8-P	米糠を用いた水素発酵におけるpHの影響	p.263	日本工業大学 ○内田祐一, 方芷萱	
Poster2 C7-9-P	金属メッシュ固定化触媒を使用したリグニンからの有用フェノール類の生産	p.265	弘前大学 ○五十嵐悠真, 田中謙太郎, 白川夢大, 高松翼, 樋口雄大, 園木和典, 吉田曉弘	
Poster1 C7-10-P	未利用系バイオマスの有効利用に向けた成分分離検討	p.267	弘前大学 ○白川夢大, 田中謙太郎, 高松翼, 五十嵐悠真, 樋口雄大, 園木和典, 吉田曉弘	
C8 メタン発酵(1) 【17(水) 9:30-10:45 第3会場】			座長：大門裕之（豊橋技術科学大学）	副座長：町川和倫（富士クリーン）
C8-1-O	高炉スラグを用いたメタン発酵における通電に伴うメタン生成特性の変化	p.269	東京農業大学 ○東島春香, TOUCHNARONG	
C8-2-O	鶏糞と有機性廃棄物の混合発酵によるバイオガス増産の定量的評価	p.271	トヨタ自動車 ○古川丈真, 株式会社 SOKEN 石川雅教	
C8-3-O	Enhanced chicken manure anaerobic digestion performance through Nano-magnetite supplementation	p.273	Hokkaido University ○Aboubacrine Oumar, Jumana Al-Mahallai, Geun-Yong Ham, Satoru Ochiai, Kazuei Ishii	
C8-4-O	パッチ式乾式メタン発酵における発酵促進効果の検証	p.275	鴻池組 ○竹森晴香, 塩路育美, 中島卓夫	
C8-5-O	微細藻類回収効率改善のための透析バッグを用いた縦型リアクターの可能性に関する研究	p.277	東邦ガス ○澤田啓太, 北海道大学 AL-mallahiJumana, 石井一英, 落合知, HAMGenu-Yong	
Poster2 C8-6-P	USABメタン発酵におけるグラニニール内反応機構の数式モデル	p.279	創価大学 ○中崎清彦, 秋田工業高等専門学校 クルニアワンウィナルト	
Poster1 C8-7-P	中温メタン発酵消化液からアンモニア態窒素を固体回収する際の効率化検討	p.281	三重県工業研究所 ○松浦真也, 西山亨, 大栄工業 川岡孝督, 神寄康之	

※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

## C9 メタン発酵(2) 【17(水) 13:30-15:00 第7会場】

座長：塩路育美（鴻池組）

副座長：八代直久（富士クリーン）

C9-1-O	メタン発酵による有機廃棄物の資源循環に関する取組状況調査 日本産業廃棄物処理振興センター ○佐々木いづみ, 藤原博良, 佐々木基了	p.283
C9-2-O	高温メタン発酵の商業施設での油脂阻害事例とラボスケールでの再現試験 Daigasエナジー ○牧野航汰, 岸田勇希, 大隅省二郎	p.285
C9-3-O	排水処理を念頭においた小規模分散型メタン発酵システムの検討 クオードコーポレーション ○大野祥平, 豊橋技術科学大学 金子光瑠, クオードコーポレーション 西直之, 豊橋技術科学大学 大門裕之	p.287
C9-4-O	食品廃棄物メタン発酵消化液における固・液中肥料成分の利用拡大に関する研究 北海道大学 ○東恵之, ハムグンヨン, 落合知, ジュマナアルマラヒ, 石井一英	p.289
C9-5-O	各種基質を用いた連続式メタン発酵における粒状活性炭の添加効果 豊橋技術科学大学大学院 ○細金龍英, 金子光瑠, 今井裕之輔, 大門裕之	p.291
C9-6-O	メタン発酵バイオガス発電で発生する液体肥料の利用促進を目的とした飼料作物栽培試験 応用地質 ○新美智也, 近藤晋, 熊野秀明, 西田守一, 大林直, 瀧口俊	p.293
Poster2 C9-7-P	乳牛ふん尿由来バイオ液肥貯留中のアンモニア濃度変動に関する研究 北海道大学 ○大塚舜, 石井一英, 落合知, Ham Geun-Yong, Juamana All-Mallahi	p.295

## C10 堆肥化・飼料化・バイオガス化・燃料化 【17(水) 15:15-16:45 第7会場】

座長：大野祥平（クオードコーポレーション）

副座長：小山光彦（長崎大学）

C10-1-O	1.5V太陽電池と直列接続した堆積物微生物燃料電池によるリン除去の効率化 東京農業大学 ○TOUCHNARONG	p.297
C10-2-O	超音波霧化を用いたメタン発酵廃液のアンモニア回収における影響因子および適用効果 カナデビア 森淳一, ○松村萌実, 宮前博子, 松下知広, 森本妙子, 船石圭介	p.299
C10-3-O	天然ゼオライトによるメタン発酵消化液中アンモニアの資源化可能性の検討 栗田工業 ○谷津愛和, 小野徳昭, 古賀哲雄, 川勝孝博, 土谷特殊農機具製作所 伊東浩一, 土谷樹生	p.301
C10-4-O	メタン発酵におけるバイオガス増産を目的とした添加物の効果検証 SOKEN ○石川雅教, トヨタ自動車 古川丈真	p.303
C10-5-O	SOFCにおける異種バイオマスのFe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 疑似燃料効果および発電性能への影響比較 名古屋大学 ○新田涼夏, 日比野高士	p.305
C10-6-O	Ca <sub>2</sub> Fe <sub>2</sub> O <sub>5</sub> の添加によるリグニンを燃料とした燃料電池発電の高効率化 名古屋大学 ○池田尚弘, 日比野高士	p.307
Poster1 C10-7-P	大型商業ビルの厨房除外汚泥の肥料転用における基肥性能の解析と需要や選好の予測検証 大阪公立大学 ○池田直哉, 大阪公立大学工業高等専門学校 倉橋健介, 協創連 菅隆, 伊藤直孝, 大阪公立大学 牛冰, 徳本勇人	p.309
Poster2 C10-8-P	大型商業ビルの厨房除外汚泥の肥料転用における植物の成長生理解析と土壌肥沃度の検証 大阪公立大学 ○田伏菜緒, 池田直哉, 大阪公立大学高等専門学校 梶温人, 協創連 菅隆, 伊藤直孝, 帝京大学 湯本絵美, 朝比奈雅志, 大阪公立大学 徳本勇人, 大阪公立大学高等専門学校 倉橋健介	p.311
Poster1 C10-9-P	下水汚泥堆肥化反応における通気条件が熱収支に及ぼす影響に関する研究 北海道大学 ○古屋潤, 落合知, HamGeun-Yong, Al-MallahiJumana, 石井一英	p.313
Poster2 C10-10-P	下水汚泥の実規模堆肥化処理における微生物群集構造の変遷 北海道大学 ○落合知, 古屋潤, 札幌下水道公社 田中梨奈, 北海道大学 Ham Guen-yong, Jumana Al-Mallahi, 石井一英	p.315
Poster1 C10-11-P	廃棄バイオプラスチック(ポリ乳酸)のバイオガス化とin-situバイオメタネーションの組み合わせによるメタン増量検討 大阪ガス ○宮崎準平, 秋元真也, 坪田潤, 京都大学 日高平, 藤原拓	p.317
Poster2 C10-12-P	一般廃棄物の生物乾燥処理施設における臭気発生特性の把握および脱臭装置の性能評価 山口大学 ○古田勇樹, 樋口隆哉, 程英超, エコマスター 鎌倉秀行	p.319
Poster1 C10-13-P	Kinetic Characterization of Hydrogen-Producing Clostridium Strains for Process Enhancement in Biohydrogen Production Yonsei University Hwan-Hong Joo, Young-Bo Sim, Gibeom Kim, ○Sang-Hyou Kim	p.321
Poster1 C10-14-P	異なる送風方式が温室内バイオドライイングの有機物分解と水分除去に及ぼす影響に関する研究 北海道大学 ○井田尚輝, Katite Ngamket, HAM Geun-Yong, 落合知, Jumana AL-Mallahi, 石井一英	p.323
Poster2 C10-15-P	Microwave Pyrolysis for Recycling of Railway Waste Wood Sleeper Korea Railroad Research Institute ○Taehoon Koh	p.325

## C11 有価物の分離回収 【18(木) 10:45-12:15 第2会場】

座長：坂元基紘（クボタ）

副座長：塩路育美（鴻池組）

C11-1-O	リチウムイオン電池検出システムの開発 川崎重工業 竹田航哉, ○三瓶大知, 中野裕, 師水僚太	p.327
C11-2-O	湿式ボールミル法による廃電子基板の脱酸素処理と金属溶出挙動の評価 東北大学 ○林怜奈, 齋藤優子, 熊谷将吾, 斯琴高娃, PhanthongPatchiya, DOWAメタルマイン 中川原聡, 渡邊宏満, 大嶋祐介, 東北大学 吉岡敏明	p.329

※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

C11-3-O	機械的前処理と湿式膨潤剥離法を組み合わせた廃ワイヤーハーネス電線からの銅と被覆樹脂の高度剥離	東北大学 ○矢嶋大揮, 熊谷将吾, 三菱マテリアル 平田洵子, 村岡弘樹, 東北大学 BorjiginSiqingaowa, PhanthongPatchiya, 齋藤優子, 吉岡敏明	p.331
C11-4-O	Evaluating the impact of static carbon dioxide supply on the culture conditions for microalgae cultivation using cow manure digestate	Hokkaido University ○Jumana Al-Mallahi, Nagisa Shindo, Kazue Ishii, Ochiai Satoru, Geun-Yong Ham	p.333
C11-5-O	セメント1トン当たり廃棄物・副産物利用量の日欧比較	太平洋セメント ○杉澤建, 明戸剛, 大神剛章, 石田泰之, 国立環境研究所 河井紘輔, 稲葉陸太, 肴倉宏史, 大迫政浩	p.335
C11-6-O	液体金属錫を用いたブライン淡水化プロセスにおける発生ガスの昇温脱離分析による同定に関する研究	東京科学大学 ○堀川虎之介, 外村優河, 富山大学 原 正憲, 東京科学大学 近藤正聡	p.337
Poster2 C11-7-P	ジルコニウム担持吸着剤を用いた微量フッ素成分含有塩水溶液からのフッ化物イオンの分離	興徳クリナー ○湯川正太郎, 世古遼, 奈良工業高等専門学校 平岡拓真, 林啓太, 中村秀美	p.339
Poster1 C11-8-P	金属資源の山元還元を目指した溶融飛灰中重金属類の高濃度化	北海道大学 ○福田基紀, 東條安匡, 黄仁姫, 松尾孝之, クボタ 寶正史樹, 柴田徹, 国立環境研究所 肴倉宏史	p.341

## D1 焼却(1) 【17(水) 9:30-10:45 第4会場】

座長：大下和徹（京都大学） 副座長：増田孝弘（タクマ）

D1-1-O	強化学習によるごみクレーン制御高度化の実現可能性検討	JFEエンジニアリング ○松本崇寛, 佐藤守樹, 樋口真司	p.343
D1-2-O	3Dシミュレーションを用いたごみホッパーの3次元計測システムの開発	カナデビア ○齊藤賢士, 成山達也, 三宅寿英, 重政祥子, 小浦洋平	p.345
D1-3-O	一般廃棄物焼却施設ピットクレーンの強化学習自動運転における状態と学習期間の縮減	福島大学 ○清野孝真, 樋口良之	p.347
D1-4-O	ごみクレーン自動化システムの動作計画自動化技術の高度化	神鋼環境ソリューション ○渡邊圭, 福川宙季, 谷田克義, 今井誠, 品川和明, 神戸製鋼所 清水克哉	p.349
D1-5-O	赤外線カメラを用いた回転ストーカ炉内ごみ状況定量化技術の開発	神戸製鋼所 ○尾崎圭太, 神鋼環境ソリューション 工藤貴洋, 梶原吉郎, 谷田克義	p.351

## D2 焼却(2) 【17(水) 11:00-12:15 第4会場】

座長：森岡泰樹（株式会社タクマ） 副座長：小野義広（日鉄エンジニアリング）

D2-1-O	ロータリキルン・ストーカ式廃棄物焼却炉の自動燃焼制御の開発	三菱重工環境・化学エンジニアリング ○滝井啓浩, 稲富淳一郎, 滑澤幸司, 三菱重工業 新家谷英之, 窪田隆博, 野間彰	p.353
D2-2-O	都市ごみ焼却炉内のCO <sub>2</sub> 濃度のボイラ伝熱管の高温腐食への影響	京都大学 ○梅垣昇吾, 京都大学 カナデビア 原田浩希, 京都大学 高岡昌輝	p.355
D2-3-O	CO <sub>2</sub> 回収を前提とした焼却炉における都市ごみのO <sub>2</sub> /CO <sub>2</sub> 燃焼特性に関する研究	京都大学 ○山橋陽生, 原田浩希, 高岡昌輝	p.357
D2-4-O	DEM-CFD連成手法を用いたストーカ式廃棄物焼却炉の燃焼シミュレーション	JFEエンジニアリング ○早友龍聖, 傳田知広, 中山剛, 松本崇寛, アンシス・ジャパン 加藤淳, 村上正洋	p.359
D2-5-O	排ガス再循環を用いた中小型ストーカ炉における低NO <sub>x</sub> 燃焼技術の開発	三菱重工業 ○横井智記, 大丸卓一郎, 今田潤司, 山本研二, MHIソリューションテクノロジーズ 瀬戸口稔彦, 三菱重工環境・化学エンジニアリング 百瀬大峰, 齊藤芳久	p.361

## D3 熱分解・炭化・ガス化 【18(木) 10:45-12:00 第4会場】

座長：横山唯史（JFEエンジニアリング） 副座長：福田尚倫（日鉄エンジニアリング）

D3-1-O	ポリ塩化ビニルを含む廃プラスチックの熱分解ガス化に関する基礎的研究	京都大学大学院 ○宍田拓也, 高岡昌輝, 原田浩希	p.363
D3-2-O	熱分解ガスクロマトグラフィーによるポリテトラフルオロエチレン熱分解生成物のインライン分析	東北大学環境科学研究科 ○藤原一貴, 熊谷将吾, SiqingaowaBorjigin, PatchiyaPhanthong, アジレント・テクノロジー 中村貞夫, 東北大学環境科学研究科 渡辺壱, 齋藤優子, フロンティア・ラボ 渡辺忠一, 東北大学理学研究科 寺前紀夫, 東北大学環境科学研究科 吉岡敏明	p.365
D3-3-O	サーキュラーエコノミーに資する SiC 材料: もみ殻を活用した資源循環型ファインセラミック	富山県立大学 ○立田真文, 金沢大学 関藤良子	p.367
D3-4-O	廃菌床の熱分解に伴う生成水量に関する検討	群馬県立群馬産業技術センター ○恩田紘樹, 三峰工業 神保光彦, 群馬県立群馬産業技術センター 和田智史, 川上亮英, 渡辺元浩, 三峰工業 村上慎一, 岡田素行	p.369
D3-5-O	廃棄物発電ボイラ過熱管の高温腐食挙動	タクマ ○古垣孝志, 岩本敬弘, 北海道大学 林重成	p.371
Poster1 D3-6-P	Reduction of Impurities in the Entrained Flow Gasification of Plastic Waste Pyrolysis Oil	University of Seoul Chan Young Lee, Tae Hwi An, Ui Myung Chung, Tae Won Lee, Ji Bin Sim, Ye Eun Oh, Young-Kwon Park, ○Myung Won Seo	p.373

※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

Poster2	D3-7-P	Hydrothermal Carbonization of PVC and Coffee Grounds: Enhanced Dechlorination and Solid Fuel Potential University of Seoul ○Seungtaek Lee, Sun-Ju Lee, Woori Cho, Samjung Technical Environment & Construction Corp. HyungTae Kim, University of Seoul Jai-Young Lee	p.375
Poster1	D3-8-P	Thermochemical Process for the Simultaneous Upcycling of PVC and Seashell into Pyrolysis Oil and Deicing Agent Kyungpook National University ○Gaeun An, Sungyup Jung	p.377
Poster2	D3-9-P	Study on the production of synthesis gas by pyrolysis of Mixed Plastics according to the type of plastic Mokpo National University ○Daegi Kim, Sunyoung Woo, Hyunji Song, DooYoung Oh	p.379
Poster1	D3-10-P	Study on ammonia adsorption performance of Cu-biochar from pig manure Jeju National University ○Myeongjin Ko, Jae Hae Ko	p.381
Poster2	D3-11-P	Synthesis of Ni/MgO-La <sub>2</sub> O <sub>3</sub> catalyst for H <sub>2</sub> production from biomass in supercritical water The University of Tokyo ○Li Lei, Osamu Sawai, Teppei Nunoura	p.383
Poster1	D3-12-P	Characterization of Pyrolysis Product Yields from Empty Fruit Bunch under Varying Temperatures and Heating Rates Kongju National University ○Rumduol Sen, Hyeontak Ko, Jimin Jeon, Junghwan Im, Seacheon Oh	p.385
Poster2	D3-13-P	廃棄物系バイオマスの亜臨界水熱炭化によるカーボンリサイクルおよび貯留特性の評価 北海道大学 吉岡優, ○黄仁姫, Thennakoon Wickramasinghe Piyumi Ayesha Hansani, 東條安匡, 松尾孝之	p.387
Poster1	D3-14-P	ゴムの水蒸気ガス化挙動およびタール・すすの生成挙動 名古屋大学 ○安中潤, 張慧, 出町豊子, 愛知工業大学 植木保昭, 岐阜大学 義家亮, 名古屋大学 成瀬一郎, 住友理工 間瀬昭雄, 西岡鉄馬	p.389
Poster2	D3-15-P	Study on the characteristics of biochar pyrolysis synthesis gas using Mushroom Waste Medium Mokpo National University ○Daegi Kim, Sunyoung Woo, Hyunji Song, DooYoung Oh	p.391

**D4 ガス化・溶融・灰溶融・溶融スラグ・熱処理** 【17(水) 11:00-12:15 第3会場】  
座長：高岡昌輝（京都大学） 副座長：枝澤圭祐（パシフィックコンサルタンツ）

D4-1-O	バイオマス固形燃料評価方法の開発	DOWAエコシステム ○横手生成, 田下裕之, 渡邊亮栄	p.393
D4-2-O	酸素富化溶融分離技術の開発 —溶融分離プロセスの飛躍的な省エネ化と処理能力の向上—	クボタ ○赤阪圭佑, 岡市真司, 寶正史樹, 井上繁則	p.395
D4-3-O	自社製造バイオマスコークス適用によるシャフト炉式ガス化溶融炉における脱炭素化への取り組み	日鉄エンジニアリング ○松井和希, 土谷悠真, 船木敢大, 柏原友, 栗田雅也	p.397
D4-4-O	溶融スラグ中のメタル分離回収技術の開発	クボタ ○大沼優斗, 井澤功, 辻英一, 坂元基紘, 井上繁則	p.399
D4-5-O	銅スラグを用いた臭素固定化挙動の解析	東北大学大学院 ○石川時, 齋藤優子, 熊谷将吾, 斯琴高娃, Phanthong Patchiya, DOWAメタルマイン 中川原聡, 渡邊宏満, 大嶋祐介, 東北大学大学院 吉岡敏明	p.401
Poster2	D4-6-P	非酸素雰囲気下におけるスクロースを用いたPV ガラスからのSb 揮発除去	p.403
		龍谷大学 ○水原詞治, 正木夏波, 真下桐弥, AGC エレクトロニクス 和田直哉, AGC 堆仁美, 竹本智典, 龍谷大学 藤森崇	
Poster1	D4-7-P	薪ストーブ燃焼ガス中CO低減のための銅酸化物触媒の実用化研究	p.405
		龍谷大学院 ○山本大輝, 龍谷大学 中塚大翔, 龍谷大学里山学術センター 占部武生, 龍谷大学 水原詞治	
Poster2	D4-8-P	PFAS汚染土壌の低温加熱処理における温度による熱脱着量の比較	p.407
		テラサーモアジア ○ブラーツ(湊) 初枝, 島田雄太郎, 福岡大学 為, 田一雄, NPO環境技術支援ネットワーク 川島正毅, ケミカルグラウト 山野辺純一, 大久保敬祐	

**D5 排ガス処理・監視** 【18(木) 9:00-10:30 第4会場】  
座長：古林通孝（カナデビア） 副座長：永山貴志（クボタ）

D5-1-O	可搬式CO <sub>2</sub> 回収装置(m-ESCAP™)を用いた廃棄物処理施設からのCO <sub>2</sub> 回収について 日鉄エンジニアリング ○森英一朗, 三村知弘, 倉持華子, 洲戸歩, 谷垣信宏, 吉田昌義	p.409
D5-2-O	建設機械の排気ガスを原料としたMOF製造実験と製造MOFの性能確認試験 大成建設 ○宮田涼平, 松尾寿峰, 岡本礼子, SyncMOF 中城世宣, 堀彰宏	p.411
D5-3-O	CeO <sub>2</sub> 、ZrO <sub>2</sub> を用いたCO <sub>2</sub> の吸着および尿素誘導体への転換 東北大学 ○松宮明日美, 横哲, 亀田知人	p.413
D5-4-O	省エネルギー型CO <sub>2</sub> 分離回収技術の実証 タクマ ○美濃谷広, 万ノ友哉, 谷屋啓太, 藤川宗治, 佐藤和宏, 増田孝弘, 巽圭司, 鎌田全一	p.415
D5-5-O	層状複水酸化物を適用した新型乾式排ガス処理(第3報) 水分を含む混合ガスによる繰り返し吸着・再生試験 栗田工業 ○森浩一, 遠藤敬太, JFEエンジニアリング 山本浩, 深井一, 東北大学大学院 亀田知人, 吉岡敏明	p.417
D5-6-O	CO <sub>3</sub> 型Zn-Al系およびMg-Fe系層状複水酸化物による酸性ガス除去 東北大学 ○野瀬陸真, 西谷清花, 栗田工業 森浩一, 藤田聡, JFEエンジニアリング 山本浩, 深井一, 東北大学 吉岡敏明, 亀田知人	p.419

※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

D6 発電・熱利用 【17(水) 13:30-15:00 第4会場】			座長：藤田淳（神鋼環境ソリューション）	副座長：戸崎正裕（タクマ）
D6-1-O	廃棄物・資源循環分野のCNシナリオを踏まえた焼却エネルギーの利用可能性の検討	p.421	数理計画 ○丸山多聞, 丸川純, 立命館大学 橋本征二	
D6-2-O	都市ごみ焼却処理施設における線形回帰モデルによる発電成績の解析	p.423	○篠靖夫	
D6-3-O	ストーカ炉式ごみ焼却炉における高効率発電の取り組みについて	p.425	日鉄エンジニアリング ○石橋文也, 神田崇仁, 今村幸平, 柏原友, 栗田雅也	
D6-4-O	産業施設における大規模焼却熱利用に関するシナリオ分析～焼却ごみ組成変化の影響～	p.427	立命館大学 ○中川岳, 神田橋幸也, 国立環境研究所 大西悟, 藤井実, 立命館大学 橋本征二	
D6-5-O	廃棄物発電ボイラにおける高温腐食センシング	p.429	日鉄エンジニアリング ○金田文香, 矢野亮, 古賀隆二, 福井遼太, 福田尚倫	
D6-6-O	廃竹材の浸出前処理による熱分解・燃焼挙動の調査	p.431	埼玉大学大学院 ○安孫子樹, 王青躍, 鈴木美穂, 王偉倩	
D7 焼却主灰・飛灰 【17(水) 15:15-16:45 第4会場】			座長：三好裕司（川崎重工業）	副座長：皆川雅志（JFEエンジニアリング）
D7-1-O	灰コンベヤ環境を模擬した焼却灰と水による水素発生の抑制に関する研究	p.433	宇宙航空研究開発機構 ○小野寺英之, 室蘭工業大学 今井良二	
D7-2-O	非発電型の太陽光エネルギー利用による焼却残渣の乾燥処理の可能性に関する基礎的研究	p.435	九州大学 ○鶴洋亮, 小宮哲平, 中山裕文	
D7-3-O	爆轟波式除灰装置の開発およびごみ焼却プラントにおける実証	p.437	三菱重工環境・化学エンジニアリング ○杉浦稔, 寺部保典, 原田朋弘, 三菱重工業 新家谷英之	
D7-4-O	ストーカ式焼却炉から排出される都市ごみ焼却灰中有価元素の回収の検討	p.439	山口大学 ○曲思宇, 程英超, 樋口隆哉	
D7-5-O	一般廃棄物焼却灰を材料とした人工石の環境安全性評価に関する研究	p.441	九州大学 ○鶴孝志郎, 小宮哲平, 中山裕文, FKGコーポレーション 奴留湯善幸, 工藤慶太, 福岡大造	
D7-6-O	医療系産業廃棄物焼却施設における主飛灰中の鉛の経年減少	p.443	神戸環境クリエート ○徐嘉星, 早川健一	
Poster1 D7-7-P	建築廃材焼却灰のクリンカ防止に向けたMgOの顆粒化・溶液化とその効果	p.445	公立鳥取環境大学 ○金相烈, 倉橋直人, 國岡朝陽, 河村電機産業 山本亜未	
Poster2 D7-8-P	DAC(Direct Air Capture)技術を活用した低濃度CO <sub>2</sub> ガスによる焼却残渣の炭酸化処理	p.447	フジタ ○繁泉恒河, 久保田洋, 高地春菜, セイコーエプソン 忠地慧, 林智弘	
Poster1 D7-9-P	飛灰のP-EDX分析による消石灰およびキレート剤使用量の最適化に関する検討	p.449	クレハ環境 大岡幸裕, 草野洋平, 小倉伸夫, ○森本恭行, 阿部祐紀	
E1 最終処分場の構造設計・維持管理・海面埋立 【17(水) 13:30-15:00 第5会場】			座長：長森正尚（埼玉県環境科学国際センター）	副座長：尾形有香（国立環境研究所）
E1-1-O	最終処分場の法条例アセスにおける課題	p.451	東京都環境科学研究所 ○門屋真希子	
E1-2-O	高密度ポリエチレン管を用いた廃棄物処分場ガス抜き管の変形について3	p.453	大林組 ○柴田健司, 三橋実季, 竹崎聡, 日笠山徹巳	
E1-3-O	不燃物と焼却残渣のみが埋立処分されている最終処分場の浸出水および周縁地下水の調査事例	p.455	福井県衛生環境研究センター ○田中宏和, 山崎慶子, 石川翔一, 島根県保健環境科学研究所 高木智史, 大阪府立環境農林水産総合研究所 矢吹芳教, 福岡県保健環境研究所 安武大輔, 埼玉県環境科学国際センター 長森正尚, 鳥取県衛生環境研究所 森明寛, 国立環境研究所 石垣智基, 遠藤和人, 山田正人	
E1-4-O	覆土代替材の最適土壌散布条件の確認試験	p.457	吉浦 ○巖厚亮, 井上誓, 日高宏樹, 久保洋喜, 棚町 秀文, 福岡大学 為, 田一雄, NPO環境技術支援ネットワーク 樋口壮太郎	
E1-5-O	排水基準のpHを満足させるのに必要な海面処分場の余水吐きサイズに関する一考察	p.459	国立環境研究所 ○遠藤和人, 田中悠平, 石森洋行, 廃棄物・3R研究財団 佐藤善樹	
E1-6-O	CO <sub>2</sub> ガス注入による高pH余水の中性化に関する検討	p.461	福岡大学大学院 ○齋霊傑, 為, 田一雄, 重松幹二, 福岡大学環境保全センター 劉佳星, NPO環境技術支援ネットワーク 樋口壮太郎	
Poster2 E1-7-P	廃棄物埋立層内外の温度差で生じる空気の流れを表現するための数理モデル	p.463	国立環境研究所 ○石森洋行, 遠藤和人, 石垣智基, 山田正人	
Poster1 E1-8-P	廃棄物最終処分場のガス抜き管の変形特性の実測及び数値解析による再現事例(第2報)	p.465	室蘭工業大学 ○新屋佑斗, 吉田英樹	
Poster2 E1-9-P	ブロック定置によるベントナイト混合土層のブロック隙間充填方法の検討	p.467	清水建設 ○則松勇, 工藤郁	
Poster1 E1-10-P	衛星画像を用いた物体検出技術YOLOによる日本の廃棄物最終処分場の検出手法に関する研究	p.469	九州大学 ○杉崎康弘, 上瀧大樹, Leeme Arther BARUTI, 中山裕文, 九州環境管理協会 島岡隆行	

※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性があります。

## E2 浸出水・発生ガス 【17(水) 9:30-10:45 第5会場】

座長：宮脇健太郎（明星大学）

副座長：石森洋行（国立環境研究所）

E2-1-O	脱炭素化社会における浸出水処理システム	NPO環境技術支援ネットワーク ○樋口壮太郎	p.471
E2-2-O	廃棄物最終処分場の上部利用時に集約したガス抜き管のガス放出量測定及びガス抜き機能の確認	埼玉県環境科学国際センター ○長森正尚, 長谷隆仁, 千葉県環境研究センター 大石修, 大阪府立環境農林水産総合研究所 伊藤耕二, 原晃大, 鳥取県衛生環境研究所 森明寛, 盛山哲郎, 奥田知佳, 鳥取県生活環境部 政井咲更美, 島根県保健環境科学研究所 高木智史, 福岡県保健環境研究所 安武大輔, 国立環境研究所 Payomthip Panida, 石垣智基, 山田正人	p.473
E2-3-O	好気性領域を持つ埋立構造における改良FODモデルを用いた廃棄物分解予測に関する研究	福岡大学 ○平田修, 田中綾子, 廃棄物管理アドバイザーネットワーク 松藤康司	p.475
E2-4-O	嫌気性環境下での硫黄の物質変換をギブスエネルギー変化から考察する	大阪工業大学 ○渡辺信久	p.477
E2-5-O	浸出水中のPFASの電気化学的処理に関する研究	福岡大学 ○劉佳星, 福岡大学大学院 俞靈傑, 為, 田一雄, NPO環境技術支援ネットワーク 樋口壮太郎	p.479
Poster1 E2-6-P	Experimental Framework for Assessing Ultimate Biodegradability of Plastics under Landfill Conditions	Hokkaido University ○Geun-Yong Ham, National Institute for Environmental Studies Tomonori Ishigaki, Hokkaido University Kazuei Ishii, Tokyo Metropolitan Research Institute for Environmental Protection Satoru Ochiai, Institute for Environmental Studies Masato Yamada	p.481
Poster2 E2-7-P	最終処分場における高性能平面排水材の浸出水排水効果に関する実験的研究	清水建設 ○工藤郁, 則松勇	p.483
Poster1 E2-8-P	海面最終処分場における高 pH 浸出水の炭酸化反応による pH 低下機構の解析: 水深と水温の影響	国立環境研究所 ○田中悠平, 遠藤和人	p.485
Poster2 E2-9-P	飛灰の炭酸化処理による浸出水中Ca濃度の長期的変化に与える影響	宮崎大学 ○土手裕, 関戸知雄	p.487
Poster1 E2-10-P	二酸化炭素高溶存溶液を用いた焼却灰埋立層中和の検討(その4)	明星大学 ○宮脇健太郎, 岩谷健人	p.489
Poster2 E2-11-P	廃棄物最終処分場のガス抜き管内の埋立ガス濃度シミュレーション(第2報)	室蘭工業大学 ○工藤颯太, 吉田英樹	p.491

## E3 有害物質挙動・早期安定化・不法投棄 【17(水) 11:00-12:15 第5会場】

座長：平田修（福岡大学）

副座長：田中宏和（福井県衛生環境研究センター）

E3-1-O	パッチ試験を用いたPFCAs及びPFSAの焼却飛灰に対する吸着等温解析	大阪公立大学 ○山内佑典, 水谷聡, 大阪府立環境農林水産総合研究所 小野順子, 足立里菜, 大阪公立大学 大阪府立環境農林水産総合研究所 伊藤耕二, 大阪府立環境農林水産総合研究所 矢吹芳教	p.493
E3-2-O	焼却主灰におけるPFCAsおよびPFSAの吸着挙動	大阪公立大学 ○光野秀利, 水谷聡, 大阪府立環境農林水産総合研究所 足立里菜, 小野純子, 大阪公立大学 山内佑典, 大阪公立大学 大阪府立環境農林水産総合研究所 伊藤耕二, 大阪府立環境農林水産総合研究所 矢吹芳教	p.495
E3-3-O	最終処分場を対象とした微生物反応による前駆物質からのPFOA生成可能性の評価	国立環境研究所 ○尾形有香, 松村秀徳, 遠藤和人, 大阪府立環境農林水産総合研究所 矢吹芳教	p.497
E3-4-O	準好気性槽浸出水集排水部におけるAnammox菌による嫌気的アンモニア酸化の可能性	福岡大学 ○田中綾子, 平田修, 廃棄物管理アドバイザーネットワーク福岡 松藤康司, いであ 山内慎, 大房健	p.499
E3-5-O	消費者行動の視点から見た散乱ごみのホットスポットの特定	国土舘大学 赤石秀之, ○崔陽	p.501
Poster1 E3-6-P	福島県内6か所の一般廃棄物最終処分場の浸出水中のセシウム濃度の調査結果	福島県環境創造センター ○高橋拓人, 高瀬和之, 日下部一晃, 国分宏城	p.503
Poster2 E3-7-P	最終処分場における重金属不溶化に向けたバイオリザーションの検討	八戸工業高等専門学校 ○北村洋樹, 国立環境研究所 石森洋行, 石垣智基, 山田正人	p.505
Poster1 E3-8-P	産業廃棄物不法投棄現場跡地(廃棄物全量撤去後)における地下水・表流水の溶存イオンおよび細菌叢解析による水質評価	建設技術研究所 ○森啓悟, 和田卓也, 環境総合リサーチ 棟方有桂, 水野貴文	p.507
Poster2 E3-9-P	硫化水素が発生した農業用ため池の環境調査および地域特性との関係	福島工業高等専門学校 ○三浦拓也, 渡邊終斗, 船山優貴, 野村倫也, 遠藤潤, 丹野淳	p.509
Poster1 E3-10-P	焼却主灰に含まれるPFCAs及びPFSAの含有量の検討	大阪公立大学 ○水谷聡, 光野秀利, 大阪府立環境農林水産総合研究所 足立里菜, 小野純子, 国立環境研究所 遠藤和人, 大阪府立環境農林水産総合研究所 伊藤耕二, 矢吹芳教	p.511
Poster2 E3-11-P	散水による埋立層への酸素供給効果に関する研究	福岡大学 ○橋本くるみ, 江真多郎, 吉村之仁, 立藤綾子	p.513
Poster1 E3-12-P	生分解性プラスチックの生分解によるナフタレン収着の影響についての研究	北海道大学 ○都築徳奈美, Ham Geun-Yong, 落合知, Jumana Al-mallahi, 石井一英	p.515
Poster2 E3-13-P	醸造酒製造時の副産物を有効利用した過硫酸法によるVOC浄化の促進	岩手大学 ○晴山渉	p.517
Poster1 E3-14-P	放射性物質を含む沿岸地盤での適応を目指したHotレーサーの基礎検討	福島工業高等専門学校 ○相澤夏暉, 国立環境研究所 田中悠平, 遠藤和人, 福島工業高等専門学校 三浦拓也	p.519

※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性あります。

## F1 有害廃棄物およびその無害化処理

【17(水) 9:30-10:45 第7会場】

座長：山本貴士（国立環境研究所）

副座長：井上豪（沖縄県衛生環境研究所）

F1-1-O	色素染色法による廃棄建材中のアスベストと繊維状物質の高感度検出・識別法	p.521
	佐賀大学 ○田端正明, 原口椋多, 矢田光徳	
F1-2-O	アウトドアウェア由来の有機フッ素化合物(PFAS)動的フローの推定	p.523
	京都大学 ○島谷茜, 小柴絢一郎, 平井康宏	
F1-3-O	PFAS及びそれらの塩の加熱挙動に関する基礎的検討	p.525
	国立環境研究所 ○倉持秀敏, 大村成二, 元木俊幸, 小林拓朗, 松神秀徳	
F1-4-O	溶融分離プロセスにおけるPFAS分解挙動の評価	p.527
	クボタ ○平戸康雅, 實正史樹, 井上繁則, 国立環境研究所 松神秀徳, 倉持秀敏	
F1-5-O	セメント硬化阻害成分を含む飛灰のアルミナセメントを用いたセメント固型化手法	p.529
	北海道大学 ○安河内隆仁, 国立環境研究所 山田一夫, 北海道大学 東條安匡, 中間貯蔵・環境安全事業 櫻井哲, 當間久夫, 小田俊司, 国立環境研究所 遠藤和人	
Poster2 F1-6-P	バイオレメディエーションを促進する腐植物質の細胞外電子伝達能とその生成過程	p.531
	名古屋大学 ○片山新太, HUTingting, HaNhu Biec, 山田良子, 栗田裕子	
Poster1 F1-7-P	フェロシアン化銅焼成物から作成したジオポリマー固型化体の崩壊要因の解明	p.533
	北海道大学 ○草野健太郎, 東條安匡, 黄仁姫, 松尾孝之	
Poster2 F1-8-P	Effect of Copper Ferrite on Degradation of Ciprofloxacin in Subcritical Water	p.535
	The University of Tokyo ○Lingjiao Zhu, Osamu Sawai, Teppei Nunoura	
Poster2 F1-9-P	水素燃焼で生成する高温過熱水蒸気を用いた粉末活性炭吸着PFAS分解処理技術の開発(その3)	p.537
	鴻池組 ○大山将, 松生隆司, 中島卓夫, 平尾壽啓, 中外炉工業 明賀法之, 河野友郎, 足立憲亮, 吉岡正博	
Poster1 F1-10-P	陽イオン交換樹脂を用いた有機塩素化合物測定法の開発	p.539
	広島県立総合技術研究所保健環境センター ○瀧脇亮次, 花岡雄哉	
Poster2 F1-11-P	産業廃棄物処理施設におけるPFHxS及びLC-PFCA含有廃棄物の分解処理について	p.541
	クレハ環境 大岡幸裕, 草野洋平, ○加藤正敏	
Poster1 F1-12-P	廃棄物資源化施設作業環境空気中の無機元素の調査	p.543
	国立環境研究所 ○山本貴士, 山田幸司	
Poster2 F1-13-P	ばいじん中ダイオキシン類濃度の経時変化から見た加熱脱塩素化処理の短縮に関する検討	p.545
	大阪市立環境科学研究センター ○高倉晃人, 加田平賢史	
Poster1 F1-14-P	ベトナムの廃タイヤリサイクル施設で粉砕されたタイヤチップから溶出する添加剤由来化合物の網羅的スクリーニング: 作業者のリスクを把握するヒト模擬消化液を用いた溶出実験	p.547
	愛媛大学 ○福井光貴, 田上瑠美, TueNguyen Minh, VNU科学大学 TuyenLe Huu, AnhDoung Hang, VietPham Hung, 愛媛大学 国末達也	
Poster2 F1-15-P	土壌菌を用いたRC砂から溶出する六価クロムの無害化	p.549
	福島工業高等専門学校 ○野村倫也, 西武建設 塩田大河, 白井賢一, 新井靖典, リーフエア 稲元裕二, 初野建材工業 初野祥子, 初野直樹, 福島工業高等専門学校 三浦拓也	
Poster2 F1-16-P	有機フッ素化合物の吸着除去および除去後の吸着剤の焼却分解効果の検証	p.551
	龍谷大学 ○古賀瑞基, 山中祐輔, 国立環境研究所 松神秀徳, 龍谷大学 藤森崇	

## F2 有害廃棄物のリスク管理

【17(水) 11:00-12:15 第7会場】

座長：繁泉恒河（フジタ）

副座長：山本貴士（国立環境研究所）

F2-1-O	酸化触媒を用いたPFAS 除去技術の開発	p.553
	奥村組 ○清水祐也, 鈴木奨士, 小河篤史, 国立環境研究所 松神秀徳, 名古屋大学 山田泰之	
F2-2-O	廃棄物処理設備の集じん灰処理工程における加水混練処理のAI活用	p.555
	日鉄エンジニアリング ○荒井修作, 谷口綾菜, 栗田雅也	
F2-3-O	最終処分場の浸出水等に含まれるFTOHs及びFOSEsの測定方法について	p.557
	福岡県保健環境研究所 ○藤川和浩, 兵庫県環境研究センター 坂本和暢, 岩手県環境保健研究センター 伊藤朋子, 大阪府立環境農林水産総合研究所 矢吹芳教	
F2-4-O	再生プラスチックに含まれる規制・未規制化学物質の存在状況調査	p.559
	国立環境研究所 ○松神秀徳, 梶原夏子	
F2-5-O	有害物質等による資源循環の阻害影響の可能性とその回避方策	p.561
	国立環境研究所 ○小口正弘, 石垣智基, 梶原夏子, 肴倉宏史, 鈴木剛, 寺園淳, 松神秀徳, 稲葉陸太, 田中厚資, 中山忠暢	
Poster2 F2-6-P	ごみ収集作業における新型コロナウイルス感染リスクアセスメント表の作成	p.563
	国立環境研究所 ○山田正人, 石垣智基, 北里大学 清和成, 古川隼士, 星子裕貴, 東北大学 モハンアマラシリ	
Poster1 F2-7-P	超短鎖PFASを吸着した粉末活性炭からのPFAS抽出条件の検討	p.565
	MIZUKEN ○中井智子, 米澤武志, 武智友裕, 鴻池組 大山将, 平尾壽啓	
Poster2 F2-8-P	産業廃棄物焼却飛灰 における炭酸化処理前後の炭酸塩組成の変動について	p.567
	フジタ ○高地春菜, 久保田洋, 繁泉恒河, 正木祥太	
Poster1 F2-9-P	硫酸・硝酸開放系での湿式分解による海岸漂着プラスチック中の重金属の定量	p.569
	公立鳥取環境大学 ○高須未咲, 門木秀幸	
Poster2 F2-10-P	ジフェニルカルバジド吸光光度分析法におけるカルシウムの妨害の除去	p.571
	公立鳥取環境大学 ○大橋こころ, 門木秀幸	



※プログラムは2025年9月3日時点のものです。今後変更の可能性があります。

Poster1 F2-11-P	廃棄物の溶出試験(環告13号)における溶出容器の試験結果への影響	p.573
	公立鳥取環境大学 ○山本奈央, 門木秀幸	
Poster2 F2-12-P	PFASを吸着した廃活性炭からのPFAS抽出条件の検討(その3)	p.575
	鴻池組 ○平尾壽啓, 大山将, MIZUKEN 中井智子, 米澤武志, 武智友裕	
Poster1 F2-13-P	Ecotoxicological Evaluation of Arsenic Species Using Species Sensitivity Distributions from the ECOTOX Knowledgebase and U.S. EPA SSD Toolbox	p.577
	Chungnam National University ○Khin Moe, Young-Soo Han	

## 企 画 セ ッ シ ョ ン

各研究部会による企画セッションや、実行委員会をはじめとする各種委員会、若手の会からの企画です。研究発表会の参加者には、これらの企画にも広くご参加いただき、研究発表会さらには本学会を通じての研究活動、社会活動が活発になされることを狙いとしています。

※内容が一部変更される可能性があることをご了解ください。

※最新情報は、各部会の web ページもご覧ください。 [http://jsmcwm.or.jp/?page\\_id=23](http://jsmcwm.or.jp/?page_id=23)

※配付資料は、各部会の web ページにある場合があります。ご確認ください。

### 『窒素循環から考える有機系廃棄物処理の歴史』

9 月 18 日 (木) 9:00～10:30 第4会場

(ごみ文化・歴史研究部会)

日本においても西欧においても、19 世紀に至るまでは、し尿や食品廃棄物は肥料・飼料として有効活用され、農地の重要な窒素源となってきました。しかし、19 世紀末～20 世紀初頭にかけて、①安価な化学肥料の供給、②固形廃棄物の性状変化、③衛生処理の普及 が進むことにより、畜産ふん尿を除き、廃棄物中の窒素の多くは循環利用から環境中への放出へと大きく変化しました。現在では、窒素循環の変化に伴う環境汚染が地球規模の問題となっています。

ごみ文化・歴史研究部会では、これまでもし尿処理の歴史を取り上げてきましたが、改めて窒素循環という観点からし尿・有機系廃棄物処理の歴史を捉え直してみたいと考えます。

私たちは廃棄物処理の制度・技術の歴史を一種独立したもののように捉えがちです。しかし、廃棄物や排泄物は人間生活の他の側面から切り離された存在ではありません。肥料や食品の歴史、都市と農村の歴史と一体で考えることで、廃棄物処理・し尿処理の歴史はよりいきいきとしたものとなるはずです。

#### プログラム

- 1 趣旨説明: 尿尿処理の歴史と窒素循環 (これまでの部会活動から)

ごみ文化・歴史研究部会 古澤康夫

- 2 講 演: ごみから考える窒素問題

総合地球環境学研究所 浅利美鈴 教授

- 3 話題提供: 窒素回収資源循環技術の開発

カナデビア株式会社

- 4 討論

### 企画セッション(物質フロー研究部会)

9 月 19 日 (金) 9:00～10:30 第2会場

(物質フロー研究部会)

(現在準備中)

世界的なサーキュラーエコノミーの潮流や、国内における「成長志向型の資源自律経済戦略」の策定や「再資源化事業等高度化法」の成立を背景として、様々な素材や製品について再生資源の価値や収率の向上による資源循環の高度化が求められている。その鍵となるのは選別や解体の技術であり、それらの技術を活かすための法制度などの社会システムの整備も欠かせない。

本企画セッションでは、人工知能(AI)やロボットを活用した選別および解体技術について、技術開発とリサイクル現場の最前線からの講演、それらを最大限に生かすための社会システムについての総合討論を通して、先端的な選別・解体技術を活用した資源循環の高度化について考える。

#### プログラム

講演1「二次資源の循環のための分離技術の考慮」

白鳥寿一（東北大学）

講演2「自動車のロボット精緻解体と再生材利用の拡大に向けた取組(仮)」

酒井麻光（株式会社デンソー）

講演3「静脈産業における『高度選別』の革新的コア技術となる生成AI(LMM、VLA)」

小林均（株式会社イーアイアイ）

講演4「リサイクルの現場から見たプラスチックの高度選別への期待と課題」

宮川英樹（ヴェオリアジャパン株式会社）

総合討論「先端的な選別・解体技術を活かす社会システムとは」

モデレータ： 中谷隼（東京大学）

廃棄物計画研究部会では、今期(2025年度～2027年度)は「循環経済への移行に向けた廃棄物計画」をテーマとし、その1年目である今年度(2025(令和7)年度)は、民間ルートの分別・廃棄物収集・資源回収に注目して活動している。

春の研究討論会の企画セミナーでは、「資源循環における民間ルートの可能性」と題して、民間ルートの回収・資源化・廃棄物管理を実施している2事業者に事例を報告いただくとともに、第5次循環計画を踏まえた一廃処理について環境省の担当者に解説いただき、パネルディスカッションでは自治体と民間の役割や新たな分別の提言や議論がなされた。こういった春のセミナーの内容も鑑み、秋の研究発表会では、「自治体と民間の協調による資源循環システムの構築」と題した企画セッションを開催する。同セッションでは、民間ルートでのプラスチック製容器の分別回収・再資源化に取り組んでいる神戸市の事例、および様々な側面から主体間の連携で資源循環に取り組んでいる名古屋市の事例を各々の担当者にご紹介いただく。また、パネルディスカッションも開催し、民間の資源循環の意義や展開、残る廃棄物のエネルギー回収・適正処理のあり方、自治体と民間の連携における理解・協力・継続・発展のコツ、自治体と民間における相互への要望等について議論を予定している。

#### プログラム

1. 開会挨拶:計画部会長 石井一英(北海道大学 教授)
2. 報告:計画部会における一廃計画策定に関する議論
3. 講演:「三重県循環型社会形成推進計画 計画と市町とのかかわり」  
三重県 松坂地域防災総合事務所 環境室 澤野弘宜 氏
4. 講演者、計画部会、フロアとのディスカッション:  
司会:石井一英 氏  
講演者:澤野弘宜 氏  
計画部会:齋藤優子 氏(東北大学 准教授)
5. 閉会挨拶:計画部会幹事長 稲葉陸太(国立環境研究所)

総合司会:北垣 剛(東芝三菱電機産業システム株式会社)

## キャリアの数だけ物語がある ―業界で活躍する先輩と語ろう―

9月19日(金) 10:45~12:15 第3会場

(若手の会)

若手の会は、廃棄物業界に係る大学及び公的研究機関に所属する若手の研究者と民間企業に勤める若手の実務者、学生のコミュニティです。

今年度はこれから研究者をはじめ様々な廃棄物・資源循環に係る職種(産・学・官)を目指していく方々を対象に、現在廃棄物・資源循環に係る研究業務等において第一線で活躍されている研究者・実務者にせまり、どのようなキャリアを築いてきたか、どのように考え、どのように選択してきたか知り、自身のキャリアデザインのヒントを得るグループディスカッションを実施します。

グループディスカッションはブース形式を採用し、出入り自由とすることで多くの研究者・実務者と交流することができ、独自の若手ネットワークをつくることを目的としています。この機会に得たものを今後の研究活動等に役立てていただきつつ、一方で、研究者・実務者にとっては次代を担う若手たちの考えを収集し自身の研究・教育活動に反映することもできる win-win なセッションを目指します。

若手の会と書いてありますが、参加年齢制限は設けておりませんので、皆様、奮ってご参加下さい。

また、研究発表会初日(9/17)の夜に韓国廃棄物学会の若手との意見交換会を予定しております。例年両国(国籍問わず)から多くの学生・若手研究者・実務者が参加し、国際交流を図る場となっています。企画セッションとともに、交流を深められる場となっておりますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

参加予定業界	
大学等	メーカー
研究機関	処理業者
公務員経験者	コンサルタント

9月18日(金) 9:00~10:30 第4会場

(バイオマス系廃棄物研究部会)

下水汚泥を単なる廃棄物としてではなく、貴重な資源として捉える視点が国内外で高まっています。下水汚泥の資源化率は高まっているものの、他のバイオマス系廃棄物と比較すると改善の余地が残されています。持続可能な循環型社会の構築に向けて、下水汚泥からエネルギー, 有価金属, さらには農業利用可能な肥料成分を回収・利活用する技術への関心が高まっています。

本企画セッションでは、下水汚泥の高度資源化に関する最新の研究動向と実用化技術について紹介します。メタン発酵などによるバイオエネルギー回収, 下水汚泥からのリン・重金属回収技術および最終的な肥料化への応用例について取り上げ、各技術の連携による資源循環型スキームの構築可能性を議論したいと考えています。地域の集約施設である下水処理場から発生する下水汚泥の利活用は、地域事情に依存すると考えられます。各地域に応じた利活用とは何か、今後の取り組むべき方向性を考えたいと考えています。

本企画セッションを通じて、下水汚泥をめぐる資源循環技術の最前線を共有するとともに、バイオマス系廃棄物処理・資源循環分野における新たな価値創出の可能性について参加者の皆様とともに考えていきたいと思います。

#### プログラム

- (1)趣旨説明 バイオマス系廃棄物研究部会 部会長 加藤雅彦(明治大学)
- (2)講演1「日本下水道協会における下水道 GX の取り組み  
～エネルギー利用・肥料利用の推進～」 日本下水道協会 永長大典氏
- (3)講演2「豊橋市バイオマス資源利活用施設整備・運営事業」 豊橋市上下水道局 松下哲也氏
- (4)講演3「溶融分離技術を核とした下水汚泥の資源循環」 株式会社クボタ 坂元基紘氏
- (5)講演4「下水汚泥溶融スラグの肥料化に向けたスラグのリン形態とリン可給性の評価」 明治大学(現, 株式会社フジタ) 曾我萌恵氏
- (6)講演5「下水汚泥からのリン回収と肥料利用」 横浜市下水道河川局 後藤賢亮氏

## 「廃棄物最終処分場研究のヒストリー 福岡大学での研究」

9月18日(金) 10:45～12:15 第4会場

(埋立処理処分研究部会)

2025年3月に公開した2024年度改訂版『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』では、廃棄物最終処分場の廃止という、廃棄物を乱さずに置いておけば、生活環境の支障とならない状態まで「安定化」したことの確認を、いくつかの指標を用いて行うという手続きについての検討してきた。しかし、そもそも廃止は廃棄物の完全な「安定化」を意味するものではない。廃棄物最終処分場の安定化を「ポスト廃止」という視点を含め改めて考える上で、そこに至るまでの多様な現象をつぶさに現場で観察することは困難であり、現象の解明には現場の観測だけではなく、実験が不可欠である。このような取り組みを行ってきた過去の研究を振り返ることは非常に有益であると思われる。今回は準好気性構造(福岡方式)の原点であり、これまで現場での調査に加えて、大型カラム試験を用いた準好気性構造の研究を行ってこられた福岡大学での廃棄物最終処分場研究に焦点を当て、「廃棄物最終処分場研究のヒストリー 福岡大学での研究」というタイトルで講演をしていただくことで、今後の「安定化」研究について、意見交換する方式で議論したいと考えている。

＜話題提供＞ 福岡大学 「廃棄物最終処分場研究のヒストリー 福岡大学での研究」

- ① 準好気性構造(福岡方式)に至るまでの道のり
- ② 準好気性の特性を明らかにする大型カラム試験を中心とした研究
- ③ 世界に福岡方式を広める

＜ワークショップ＞ 福岡大学と参加者の質疑と議論

今後の最終処分場の安全・安心を考える上での研究者へのアドバイス

# 市民展示・環境学習施設展示（一般公開・無料）

## 市民展示

### ■市民展示(実行委員会)

概要：以下の2日間、EI創発館2階のEI023(多目的講義室3)にて、当学会の消費者市民研究部会および以下の団体の展示が行われます。東海・北陸地方を中心に活動する環境団体・行政などが、3Rに関する持続可能な社会に向けた各団体の取り組みについてパネル展示にて紹介します。研究発表会参加者の皆様、是非市民展示に足を運び、情報収集や交流をして下さい。

さらに、9月17日(月)15:15～16:45 第6会場(オークマ工作機械工学館2F 講義室)にて、市民フォーラムが開催(別案内参照)され、それぞれ短時間ですが各団体が口頭で活動紹介を発表します。市民フォーラムにもどうぞご参加ください。



9月17日(水)10:00～18:00

9月18日(木) 9:00～14:30 頃

メイン・タイム: 上のうち市民フォーラム直後の時間帯は各パネルに説明者が居られる予定です(原則)

※団体によっては、展示時間が短縮されたりする場合があります。また一部時間だけ説明者が常駐しない団体もあります。

	展示団体名	展示タイトル
1	愛知県建設局土木部建設企画課 愛知県環境局資源循環推進課	愛知県環境局資源循環課 「サーキュラーエコノミーとは?」 愛知県建設局土木部建設企画課 「あいくる ご存じですか?」
2	名古屋市環境局資源循環部 資源循環企画課	名古屋市における資源循環に関する取り組みについて
3	国際連合地域開発センター(UNCRD)	国際連合地域開発センター(UNCRD) 3Rプロジェクト
4	なごや環境大学実行委員会	20周年、その先へ! なごや環境大学
5	NPO 法人 愛知県環境カウンセラー協会(AECA)	特定非営利活動法人(NPO)愛知環境カウンセラー協会(AECA)について(歩みと活動内容)
6	認定 NPO 法人 中部リサイクル運動市民の会	環境と福祉の連携で進めるリユース活動
7	一般社団法人 しげんカフェシステムズ	家庭の資源買い取ります!
8	さくらや小牧店	3R+循環社会
9	NPO 法人 日進野菜塾	段ボールコンポストで毎日出る生ごみを堆肥化し、おいしい野菜を育て、エコな暮らしを実現しませんか!
10	おかえりやさいプロジェクト	地域循環野菜「おかえりやさい」を知って学んで味わって楽しもう!
11	一般社団法人 ネクストステップ研究会	資源循環 生ごみが消えちゃうキーロ
12	特定非営利活動法人 知多 ABC ネット	竹林資源の活用の可能性について
13	NPO エコラボ	いしかわの恵みを未来につなぐ —地域資源とマネジメント視点を取り入れた体験型環境食育—
14	生物多様性あいち学生プロジェクト 「GAIA」	未来へつなぐユース世代「GAIA」の取り組み



	展示団体名	展示タイトル
15	3R・気候変動検定 (一般社団法人持続可能環境センター)	3R・気候変動検定
16	一般社団法人 廃棄物資源循環学会 消費者市民研究部会	「世界の分別箱・ごみ箱写真展」 「循環とくらし・C&G コーナー」
17	豊山町 SDGs 推進協議会	豊山町保育園におけるコンポスト導入
18	公益社団法人 食品容器環境美化協会	食品容器循環美化協会によるアダプト・プログラム推進 の取組

ご専門外の展示内容でも、会場で気軽にお声がけください。

## 利用者の声は「宝の山」～満足度を半歩アップさせる施設・イベント運営～

各地に建設されている環境学習施設は、その地域が抱える廃棄物問題や環境問題に対応したイベントやプログラムを準備して施設運営に取り組んでいます。そして、施設への満足度をアップさせるには、利用者の声が直接のヒントになります。

今回のフォーラムでは、利用者からの声をすくい上げて施設・イベント運営に取り組む事例を紹介します。さらに、事例を基にした議論を通して各施設にそのノウハウを水平展開させたいと考えています。

既存施設だけでなく、これから新規開設される施設にとっても有意義なフォーラムになるはずです。関係する多くのみなさまの参加をお待ちしています。

【日時】 9/18(木)10:45～12:15

【場所】 第6会場:オークマ工作機械工学館 2F 講義室

【プログラム】

1. 冒頭あいさつ 花嶋温子部会長(大阪産業大学)

2. 「コミュニケーションからつながるリユースの輪」

永田秀和、浅井久美(中部リサイクル運動市民の会)

誕生から45年目を迎えた中部リサイクル運動市民の会。利用者とのコミュニケーションを通して新しい活動を展開している。市民ボランティアと資源回収拠点を運営するほか、リユースの推進・不用品の寄付受け付け、チャリティーショップの開催など活動の幅を広げてきた。

3. 「20年以上続く、大型ごみ(粗大ごみ)のリユース事業が今も人気の理由とは」

東飛郎(札幌市リサイクルプラザ)

札幌市リサイクルプラザのリサイクル事業は長年続いてきたが、利用者数はいったん下火に。そこで、利用者の声を吸い上げることで「V字回復」に成功。盛り上がりを見せている。

4. 「住民の声を集めて誕生した施設」 関野正(国崎クリーンセンター啓発施設)

国崎クリーンセンター啓発施設「ゆめほたる」は建設に先立ち、地元の住民たちによる「施設整備検討委員会」「建設フォローアップ委員会」により施設のあり方が検討された。完成した施設は、住民の声をできるだけ反映したものとなった。

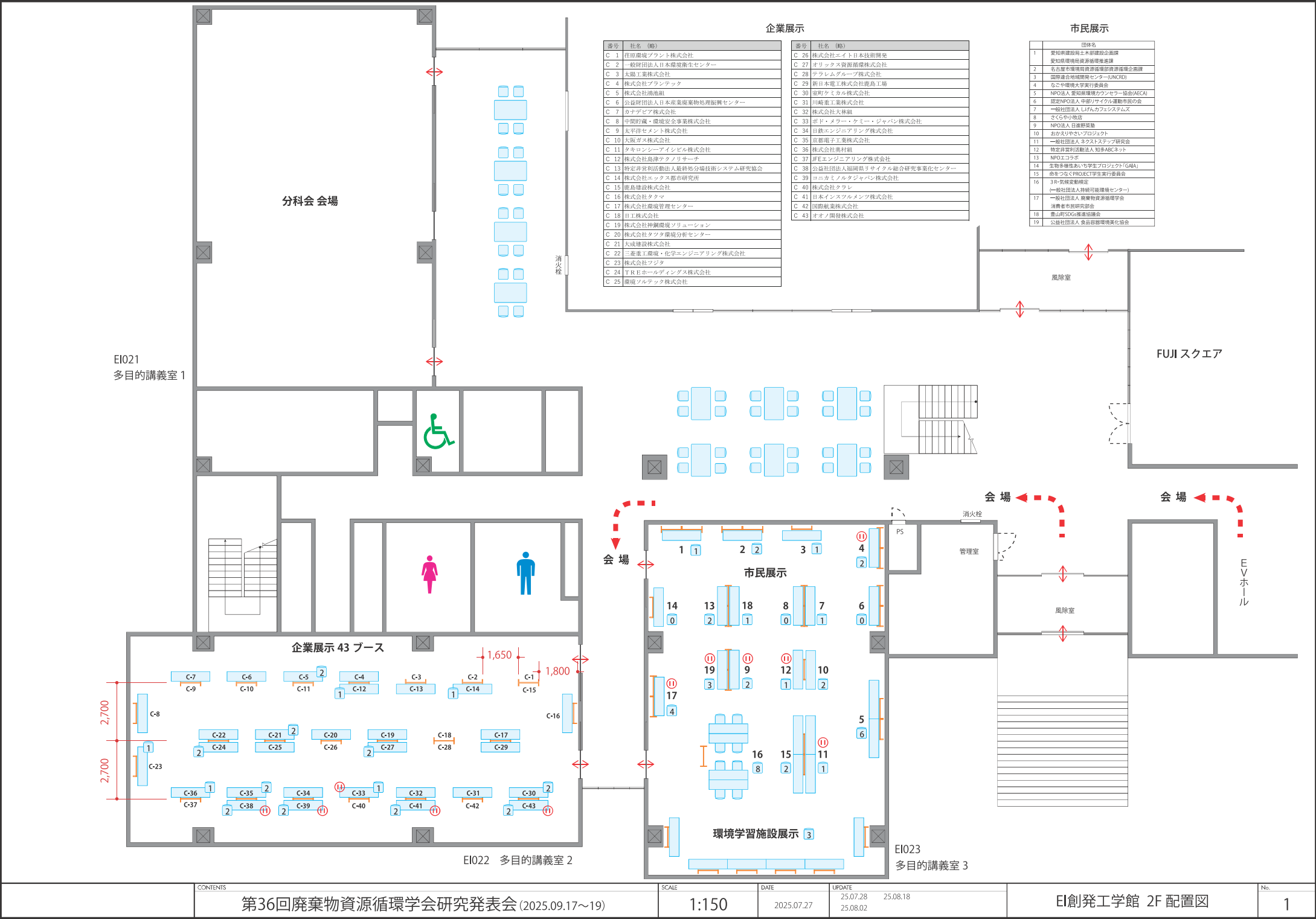
5. パネル討論／会場からの質疑応答／まとめ

花嶋温子部会長

協賛企業・団体等展示

企業・団体展示

番号	企業・団体
C 1	荏原環境プラント株式会社
C 2	一般財団法人日本環境衛生センター
C 3	太陽工業株式会社
C 4	株式会社プランテック
C 5	株式会社鴻池組
C 6	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター
C 7	カナデビア株式会社
C 8	中間貯蔵・環境安全事業株式会社
C 9	太平洋セメント株式会社
C10	大阪ガス株式会社
C11	タキロンシーアイシビル株式会社
C12	株式会社島津テクノリサーチ
C13	特定非営利活動法人最終処分場技術システム研究協会
C14	株式会社エックス都市研究所株式会社環境管理センター
C15	鹿島建設株式会社
C16	株式会社タクマ
C17	株式会社環境管理センター
C18	日工株式会社
C19	株式会社神鋼環境ソリューション
C20	株式会社タツタ環境分析センター
C21	大成建設株式会社
C22	三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社
C23	株式会社フジタ
C24	TREホールディングス株式会社
C25	環境ソルテック株式会社
C26	株式会社エイト日本技術開発
C27	オリックス資源循環株式会社
C28	テラレムグループ株式会社
C29	新日本電工株式会社鹿島工場
C30	室町ケミカル株式会社
C31	川崎重工業株式会社
C32	株式会社大林組
C33	ボド・メラ・ケミー・ジャパン株式会社
C34	日鉄エンジニアリング株式会社
C35	京都電子工業株式会社
C36	株式会社奥村組
C37	JFE エンジニアリング株式会社
C38	公益社団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター
C39	コニカミノルタジャパン株式会社
C40	株式会社クラレ
C41	日本インスツルメンツ株式会社
C42	国際航業株式会社
C43	オオノ開発株式会社



番号	社名 (順)
C 1	作原環境プラント株式会社
C 2	一般財団法人日本環境衛生センター
C 3	太陽工業株式会社
C 4	株式会社プランテック
C 5	株式会社商推組
C 6	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター
C 7	カナデピア株式会社
C 8	中間貯蔵・環境安全事業株式会社
C 9	玉平洋セメント株式会社
C 10	大阪ガス株式会社
C 11	タキロンシーアイシビル株式会社
C 12	株式会社島津テクノリサーチ
C 13	特定非営利活動法人最終処分場技術システム研究協会
C 14	株式会社エックス都市研究所
C 15	鹿島建設株式会社
C 16	株式会社タクマ
C 17	株式会社環境管理センター
C 18	日工株式会社
C 19	株式会社神鋼環境ソリューション
C 20	株式会社タツタ環境分析センター
C 21	大成建設株式会社
C 22	三菱重工・環境・化学エンジニアリング株式会社
C 23	株式会社フジタ
C 24	T R Eホールディングス株式会社
C 25	環境ソルテック株式会社

番号	社名 (順)
C 26	株式会社エイト日本技術開発
C 27	オリックス資源循環株式会社
C 28	テラレムグループ株式会社
C 29	新日本電工株式会社鹿児島工場
C 30	室町ケミカル株式会社
C 31	川崎重工業株式会社
C 32	株式会社大林組
C 33	ボド・メラー・ケミー・ジャパン株式会社
C 34	日鉄エンジニアリング株式会社
C 35	京都電子工業株式会社
C 36	株式会社恵村組
C 37	JFEエンジニアリング株式会社
C 38	公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター
C 39	ロニカミフルタジャパン株式会社
C 40	株式会社クラレ
C 41	日本インスワルメンツ株式会社
C 42	国際航業株式会社
C 43	オオノ開発株式会社

	団体名
1	愛知県建設局土木部建設企画課
2	愛知県環境局資源循環推進課
3	名古屋市環境局資源循環部資源循環企画課
4	国土交通省地域開発センター(UNCRO)
5	NPO法人 愛知環境教育センター協会(AECA)
6	認定NPO法人 中部リサイクル運動市民の会
7	一般社団法人 しげんカフェシステムズ
8	さくらや小売店
9	NPO法人 日連野庭園
10	おかしやさいプロダクト
11	一般社団法人 スクワッドステップ研究会
12	特定非営利活動法人 知多ABCネット
13	NPOエコラボ
14	生物多様性あいち学生プロジェクト(GAIA)
15	命をつなぐPROJECT学生実行委員会
16	3R-気候変動特定
17	一般社団法人 地域可能性開発センター
18	一般社団法人 廃棄物資源循環学会
19	消費者市民研究部会

## 施 設 見 学 会

今回の施設見学会は、

第1コース【化石燃料活用事例視察コース】

第2コース【西知多クリーンセンター見学コース】

をご用意いたしました。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日：2025年9月19日（金）

申込方法：参加登録からお申込みください。

申込締切：2025年8月8日（金）

尚、8月19日（火）に両コースとも定員に達した。

### 注意点

- ☐ 同日のセッションプログラムを十分ご確認の上、お申込み下さい。
- ☐ 参加者のご都合によりキャンセルされる場合は、参加費は返金いたしません。
- ☐ 集合場所はすべてのコースで「名古屋大学 東山キャンパス豊田講堂前」です。
- ☐ 解散場所はすべてのコースで「JR名古屋駅」です
- ☐ 全行程を貸切バスで移動します。
- ☐ 道路状況等によっては、解散時間が遅れる場合もありますので、ご了承ください。
- ☐ お飲み物および雨具等は必要に応じて各自ご持参ください

第1コースにご参加の方は、昼食を準備しておりませんので各自でご用意ください。

第2コース（午後からのコース）にお申込みの方は昼食をお済ませの上、ご参加ください。

問合せ先：実行委員会 「施設見学について」と明記して次のアドレスまでお問い合わせください。

実行委員会施設見学会チーム 大門裕之（豊橋技術科学大学） daimon@tut.jp

※ 開催期間中に緊急連絡事項がある場合は、受付横にて掲示する電話番号までご連絡ください。

内 容	定 員	参加費
<b>第1コース 【化石燃料活用事例視察コース】</b> 8:30 名古屋大学 東山キャンパス豊田講堂前 集合 9:00 名古屋大学 東山キャンパス豊田講堂前 バス出発 10:30 武豊火力発電所 バス到着 12:00 武豊火力発電所 バス出発 12:40 東部知多クリーンセンター バス到着 昼食&懇談 13:30 施設視察 16:00 東部知多クリーンセンター バス出発 17:30 JR名古屋駅前 解散	40名	4,000円
<b>第2コース【西知多クリーンセンター見学コース】</b> 12:30 名古屋大学 東山キャンパス豊田講堂前 集合 12:40 名古屋大学 東山キャンパス豊田講堂前 バス出発 13:25 西知多クリーンセンター バス到着 13:30 西知多クリーンセンター内ごみピット、発電施設等の見学 15:35 西知多クリーンセンター バス出発 16:30 JR名古屋駅前 解散	20名	3,500円

## 第1コース 【化石燃料活用事例視察コース】

### 【訪問先】

- ①武豊火力発電所
- ②東部知多クリーンセンター

### 【コース概要】

ゼロエミッションの流れに対応すべき都市機能を維持するための施設では、様々な工夫がされているが、限りなく外部への負荷を軽減するための努力が地道に進められている。今回視察の対象として選定した施設は、旧来施設の構成から大幅な改善を試み、限りなく排出物ゼロを実現した施設を選定している。

その一つは都市の機能を維持するための電力供給施設－武豊火力発電所－であり、もう一つは、都市の環境を維持するための廃棄物処理施設－東部知多クリーンセンター(エコリ)－である。

武豊火力発電所は現在では石炭を主とする発電所であるが、超々臨界圧の(USC)の技術を採用しており、さらには木質バイオマスを加えることで環境負荷軽減を目途とした施設である。また、燃え殻の全てはセメント原料等として利用されている。

東部知多クリーンセンターは、管理型最終処分施設を必要としない処理施設で、これを実現するためのコークスを投入しているが、当初(1979 年)の投入量を徐々に軽減させることで環境負荷の軽減に努めて来ているが、今回視察する施設では低炭素型を採用しており、コークス投入量は当初から比較すると 1/6 まで軽減されている。また、当施設で生成されるスラグは JIS 規格に承認されているが、さらに、有効利用の道を模索して来ている。



武豊火力発電所



東部知多クリーンセンター

## 第2コース 【西知多クリーンセンター見学コース】

【訪問先】西知多クリーンセンター

### 【コース概要】

西知多クリーンセンターは、災害時の防災機能を強化した、助燃剤を使わないストーカ型の焼却炉(92.5t/日×2炉)で、発電出力は5,220kW(定格出力)、発電効率は国内最高レベルの24%に達し、特別高圧の系統電力に接続して地域の電力需要に貢献する最新鋭(2024年7月開設)の一般廃棄物処理施設です。また、本センターは知多半島グリーンベルトの中にあり、ビオトープ等も備えた都市近郊型の資源循環拠点および環境学習スペースとして機能しています。今回はその運用状況について見学させていただきます。



西知多クリーンセンター

## 集合場所地図

【集合場所】：名古屋大学 東山キャンパス 豊田講堂前



## 全国環境研協議会発表会

### 趣旨

地方環境研究所で構成される全国環境研協議会（全環研）と廃棄物資源循環学会の廃棄物試験・検査法研究部会との共催による研究発表会です。全環研からは地方環境研究所が行っている廃棄物に関連した研究発表を、廃棄物試験・検査法研究部会からは廃棄物にかかる分析方法等に関する情報提供をいただき、活発な意見交換を通じて廃棄物等に関する諸問題について考えます。

日時：9月19日（金） 9:00～12:15

場所：名古屋大学 東山キャンパス

会場：第1会場（IB 電子情報館中棟 1F IB011）

### プログラム

#### 第1部 全国環境研協議会研究発表会（9:00～10:45）

司会進行 永田 優太（新潟県保健環境科学研究所）

##### 1. 研究発表

###### (1) 廃リチウムイオン電池の残存電気量調査

川寄 幹生 氏（埼玉県環境科学国際センター）

###### (2) マルチベネフィットの視点でとらえた土壁材の再生製品開発に向けた基礎研究

近藤 笑加 氏（三重県保健環境研究所）

###### (3) 管理型最終処分場での廃棄物の埋立処分における窒素に着目した管理手法に関する研究

高木 智史 氏（島根県保健環境科学研究所）

###### (4) PFAS 測定に用いるフィルターの測定への影響について

井上 豪 氏（沖縄県衛生環境研究所）

###### (5) 廃タイヤのフロー把握と TWP (Tire Wear Particles) に関する調査研究

永洞 真一郎 氏（(地独)北海道道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所）

#### 第2部 廃棄物試験・検査法研究部会との情報交換会（10:45～12:15）

「廃棄物の試験・検査に係る最近の話題」

司会進行：山本 貴士（(国研)国立環境研究所）

##### 1. 広範な PFAS 管理のための廃棄物・環境分析に関する研究(仮)

松神 秀徳 氏（(国研)国立環境研究所）

##### 2. レベル 3 建材からの石綿散逸問題に関するこれまでの取組みと今後の展開

酒井 護 氏（大阪市立環境科学研究センター）

##### 3. 令和6年度産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法検討業務の報告(仮)

仲地 愛子 氏（(株)環境管理センター）



## 意見交換会

意見交換会の参加に当たっては参加登録システム（Confit）からの、事前登録・お支払いをお願いしております。当日申込みも受け付けておりますが、混雑が予想される他、確定済みの人数を超える場合は特別に設定された割増料金が適用されることがございますので、ご協力お願いいたします。

↓参加登録システム(Confit)へのリンク

<https://jsmcwm.confite.atlas.jp>

日時：2025年9月18日（木） 18:00～20:00

会場：豊田講堂アトリウム・シンポジオン

[https://www.nagoya-u.ac.jp/info/old\\_upload\\_images/toyodakoudou2018.pdf](https://www.nagoya-u.ac.jp/info/old_upload_images/toyodakoudou2018.pdf)

住所：〒464-0813 愛知県名古屋市千種区不老町

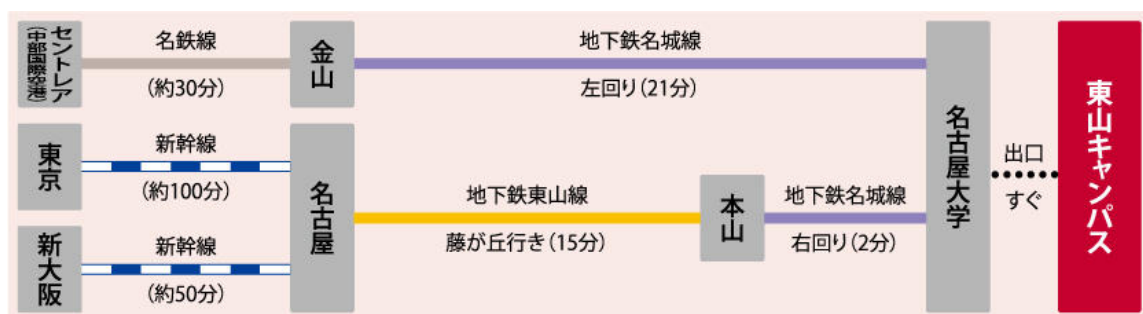
アクセス：

JR名古屋駅・名鉄新名古屋駅・近鉄名古屋駅からの場合

- 地下鉄東山線藤が丘行きに乗車し、本山駅で地下鉄名城線右回りに乗り換え、名古屋大学駅下車。

JR金山駅・名鉄金山駅からの場合

- 地下鉄名城線左回りに乗車し、名古屋大学駅下車。



会費：正会員 7,000 円、学生会員 3,000 円、非会員 11,000 円

なお、無料招待の方も必ず参加申し込みくださいますようお願いいたします。



会場へのアクセス（名古屋大学キャンパスマップ）



会場全景

## 参加申込方法

### 参加費（お１人様あたり）

	研究発表会参加費 (会員は不課税、非会員は課税) (オンサイト・オンライン参加同額)		意見交換会 (税込、要事前申し込み)
	事前申込 (早期割引料金)	通常参加申込 (通常料金)	
正、フェロー、シニア会員 公益、賛助会員所属	8,000 円	10,000 円	7,000 円
学生、個人市民 登録団体市民会員	4,000 円	5,000 円	3,000 円
非会員	12,000 円	15,000 円	11,000 円

### 参加申込

現地参加、オンライン参加の両方の参加申込を受け付けます。

新型コロナウイルスの感染防止の観点から、可能な限り事前参加登録にご協力願います。

◆事前参加登録（早期割引）～8 月 8 日（金）支払い期限：8 月 29 日（金）

◆通常参加登録 期間：8 月 9 日（土）～大会会期中

登録サイト<https://jsmcwm.conf.it.atlas.jp>

◆注意事項

◇参加証と領収書はサイトからダウンロードが可能です。

◇オンラインで参加申込（事前・通常）された方が現地参加される際は、参加証を A4 印刷し、点線に沿って切り取ってご持参ください。事前に郵送しませんので、お気を付けください。

◇施設見学会の参加登録も受け付けます。

◇参加申込者への電子版講演原稿 DL 用 PW は9 月中旬にお知らせ予定です。

◆意見交換会

◇日時：9月18日(木) 18:00~20:00

◇会場：豊田講堂アトリウム・シンポジオン

◇[https://www.nagoya-u.ac.jp/info/old\\_upload\\_images/toyodakoudou2018.pdf](https://www.nagoya-u.ac.jp/info/old_upload_images/toyodakoudou2018.pdf)

◇住所：〒464-0813 愛知県名古屋市中千種区不老町

◇定員となり次第受付終了となりますので、ご了承ください。

◇申込：参加登録システムからお申し込みください。当日申込みも受け付けておりますが、混雑が予想される他、確定済みの人数を超える場合は特別に設定された割増料金が適用されることがございますので、ご協力お願いいたします。

<https://jsmcwm.conf.it.atlas.jp>

### 問 合 せ 先

一般社団法人廃棄物資源循環学会事務局：03-3769-5099 またはメール [[jimu@jsmcwm.or.jp](mailto:jimu@jsmcwm.or.jp)]

## 参加発表ガイドライン

### 参加者ガイドライン

第36回大会は、すべて会場現地での発表となります。なお、オンラインからの参加者のために、口頭発表はオンラインでも配信します。参加者は注意事項を熟読のうえ、ご参加下さい。

#### 口頭発表者の皆様

発表用スライドファイルの事前提出を【9/9（火）17時まで】にお願いしています。ファイルの提出方法は後述の「発表用ファイルの事前提出について」をご参照ください。研究発表会の円滑な進行のためにご協力をお願いいたします。

#### 1. 現地参加

- ❖ 会場内における基本的な感染防止対策（マスク着用、手指衛生、換気、三密回避、人と人との距離の確保）については、ご自身の判断で実施してください。
- ❖ 発表者の関係者以外による会場での写真・動画撮影など発表の妨げになる行為はお控え下さい。
- ❖ 当日のトラブル対応状況については、発表会ホームページ (<https://jsmcwm.or.jp/taikai2025/>) をご覧下さい。

#### 2. オンライン参加

- ❖ 口頭発表セッションのみ、Zoomによるオンライン配信を行います（ポスターセッションのオンライン配信はありません）。
- ❖ オンライン会場（Zoom URL）は、学会参加者のみに提供しております。会場URLをメール等で他者に伝えること、SNS等でURLを公開することは禁止します。加えて、一般セッションにおけるオンライン参加者は原則、傍聴のみの参加になります。
- ❖ 発表画面のスクリーンショットや録音・録画はお控え下さい。
- ❖ 音声途切れる場合がありますが、サーバーダウンでない限り主催者は責任を負いません。
- ❖ Zoomの表示名を「氏名（所属）」としてください（例：「廃棄物太郎（循環研）」）。
- ❖ 当日のトラブル対応状況については、発表会ホームページ (<https://jsmcwm.or.jp/taikai2025/>) をご覧下さい。
- ❖ 当日の注意点について、以下をご確認ください。
  - 各セッションへの参加は、お知らせいたしましたZoom URLよりお願いします。
  - Zoom会場に参加後はマイク・カメラをオフにして下さい。
  - 接続後、画面共有で表示されている会場名、セッション名等を確認してください。
  - セッション終了後は会場から退出下さい。途中退室・入室は自由です。

## 口頭発表ガイドライン

不測の事態に対する対応のため、全ての発表者に発表ファイルを事前提出していただきます。

### 発表用ファイルの事前提出について

- 発表用ファイルは【9/9（火）17時まで】に提出してください。
- 発表用ファイルは、講演登録・参加登録ページ（<https://jsmcwm.confit.atlas.jp/login>）から同じConfitアカウントでログインし、「投稿状況」の該当する発表のページからアップロードしてください。
- 発表用ファイルの形式はMicrosoft PowerPointプレゼンテーションファイル（pptx、Microsoft PowerPoint 2024 で動作するもの）またはPDFファイル（pdf）としてください。
- 発表用ファイルのサイズは20MB程度以内（最大50MB以内）を目安として作成してください。
- ファイル名は「講演番号\_氏名（所属）」としてください（例：「C4-4-O\_資源廃棄物（名古屋大学）」）
- 発表用ファイルを事前提出いただけない場合は発表を取り消すことがあります。また、発表当日のファイル提出や差し替えは原則受け付けませんので、ご注意ください。

- ❖ 発表時間は交替時間を含めて15分間とし、発表10分間、質疑応答5分間を原則とします。発表前の準備に時間がかかった場合は、講演者の発表時間を短縮させるなどして調整していただきます。また、発表時間を超過した場合は発表を打ち切られることがあります。いずれの場合も、座長の指示に従ってください。
- ❖ Zoomでの画面共有までは会場係が行いますが、それ以降は発表者自らが会場のノートパソコンを操作し、発表を行ってください。
- ❖ 発表用ファイルの事前提出にご協力ください（9/9（火）17時まで）。ファイルの基本的な動作確認は実行委員会で行います（会場の状況によりますが、発表セッション前の休憩に発表者ご自身で確認いただくことができる場合もあります）。
- ❖ 原則として、発表開始時刻に発表者が不在の場合は発表できません。その場合、以降の発表は繰り上げることなく予定通りの時間で行います。
- ❖ 発表言語は、日本語もしくは英語とします。
- ❖ 事情により講演時間に遅れる場合は、下記問合せ先にご連絡下さい。

### 学生を対象とした優秀講演賞について

- ・口頭発表セッションでは、学術研究委員会が選定した2～3名の審査により、優秀講演賞を選出する予定です。
- ・学生による発表が選考対象となります。
- ・「発表内容・時間」、「発表の分かりやすさ」、「質疑の対応」の3項目について審査を行います。
- ・審査結果を学術研究委員会が集計し、優秀講演賞の選出を行います。
- ・学会終了後、優秀講演賞受賞者の一覧を学会ホームページに掲載します。

### ～口頭発表に関する問い合わせ～

担当：実行委員会 会場・機材担当、白川博章

（問合せ先：[jsmcwm2025.nagoya@gmail.com](mailto:jsmcwm2025.nagoya@gmail.com)）



## ポスター発表ガイドライン

発表者は注意事項を熟読の上、発表の準備並びに参加・発表をお願い致します。なお、ポスター発表のオンライン配信はしませんのでご了承下さい。

### ポスター発表セッション

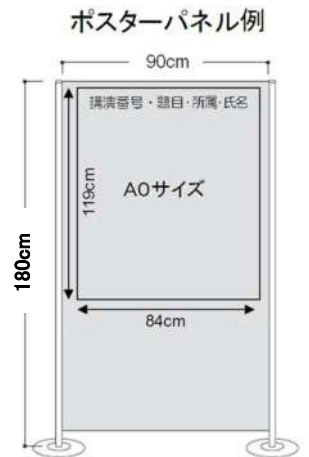
P1：9/17（水）17:00～18:15、P2：9/18（木）13:00～14:15

#### (1) 発表ポスターの作成

- ❖ パネルとポスターのサイズは、右の「ポスターパネル例」を参考にして下さい。
- ❖ パネルの最上部タテ 10cm 部分には大きな文字で、講演番号、題目、所属、氏名を明記して下さい。
- ❖ 実験サンプル等を持ち込むことは可とします。ただし、かさばるもの、電源を必要とするもの、商品宣伝の意図を強く題した内容のものは不可とします。

#### (2) 発表ポスターの貼付と撤収

- ❖ ポスター発表の場所はIB電子総合館中棟1F廊下です。
- ❖ ポスターはP1は9/17（水）9時から、P2は9/18（木）9時から、掲示できます。
- ❖ ポスターパネルに掲示する発表番号でご自身の掲示場所を確認し、会場入口付近にある机から画鋏（学会が用意する専用のものをお使いください）を取って、各自でポスターを貼り付けて下さい。また発表者の方はリボンを取って発表時間に付けるようにして下さい。
- ❖ 以下の発表時間にはポスターの前で説明を行ってください。



**P1 9月17日（水） 17:00～18:15**

**P2 9月18日（木） 13:00～14:15**

- ❖ ポスターは発表者の責任で**P1は9/17（水）18:30までに、P2は9/18（木）18:30までに**撤収してください。この時間までに撤収されていないポスターは、許可を得ず実行委員会にて処分します。

### 優秀ポスター賞・国際ポスター賞について

- ・ポスターセッションでは、学術研究委員会および国際委員会の審査により優秀ポスター賞を選出する予定です。
- ・ポスター発表セッション（P1：9/17（水）17:00～18:15、P2：9/18（木）13:00～14:15）にポスターが掲示されている発表が審査対象となります。
- ・学会終了後、優秀ポスター賞受賞者の一覧を学会ホームページに掲載します。

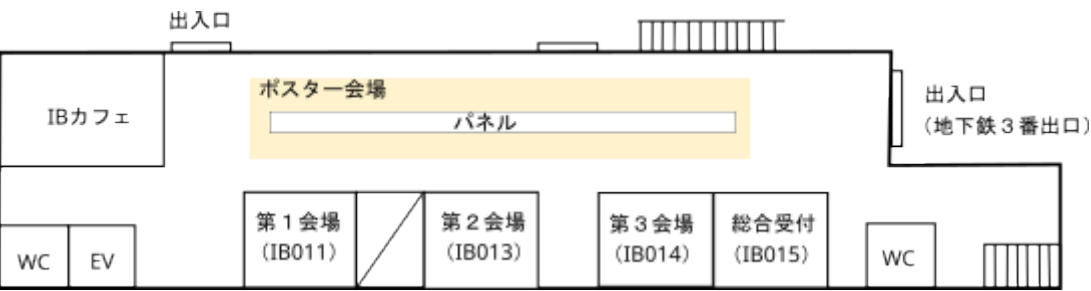
～ポスター発表に関する問い合わせ～

担当：実行委員会 会場・機材担当、白川博章

（問合せ先：[jsmcwm2025.nagoya@gmail.com](mailto:jsmcwm2025.nagoya@gmail.com)）

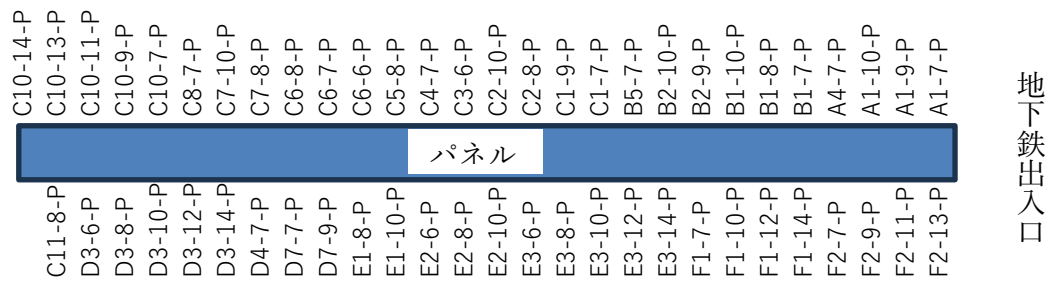
■ポスター会場

IB電子情報館中棟 1 F廊下

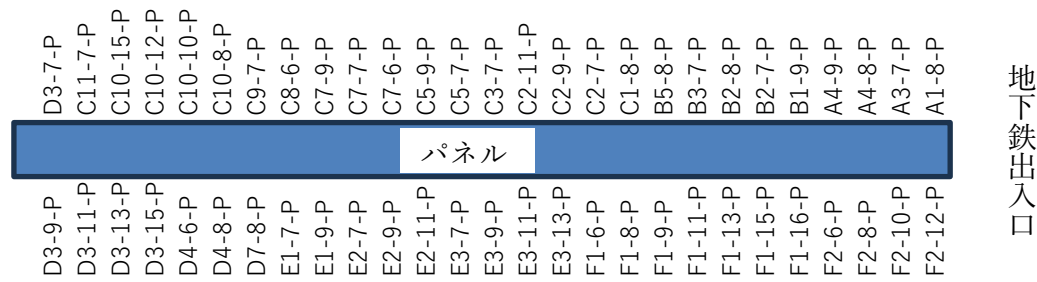


■現地発表ポスターの貼付位置

9月17日



9月18日



## 会場へのアクセス・会場案内図

### 会場へのアクセス

交通アクセス、キャンパスマップ等の詳細は、名古屋大学サイトでご確認ください。

#### 名古屋大学東山キャンパス

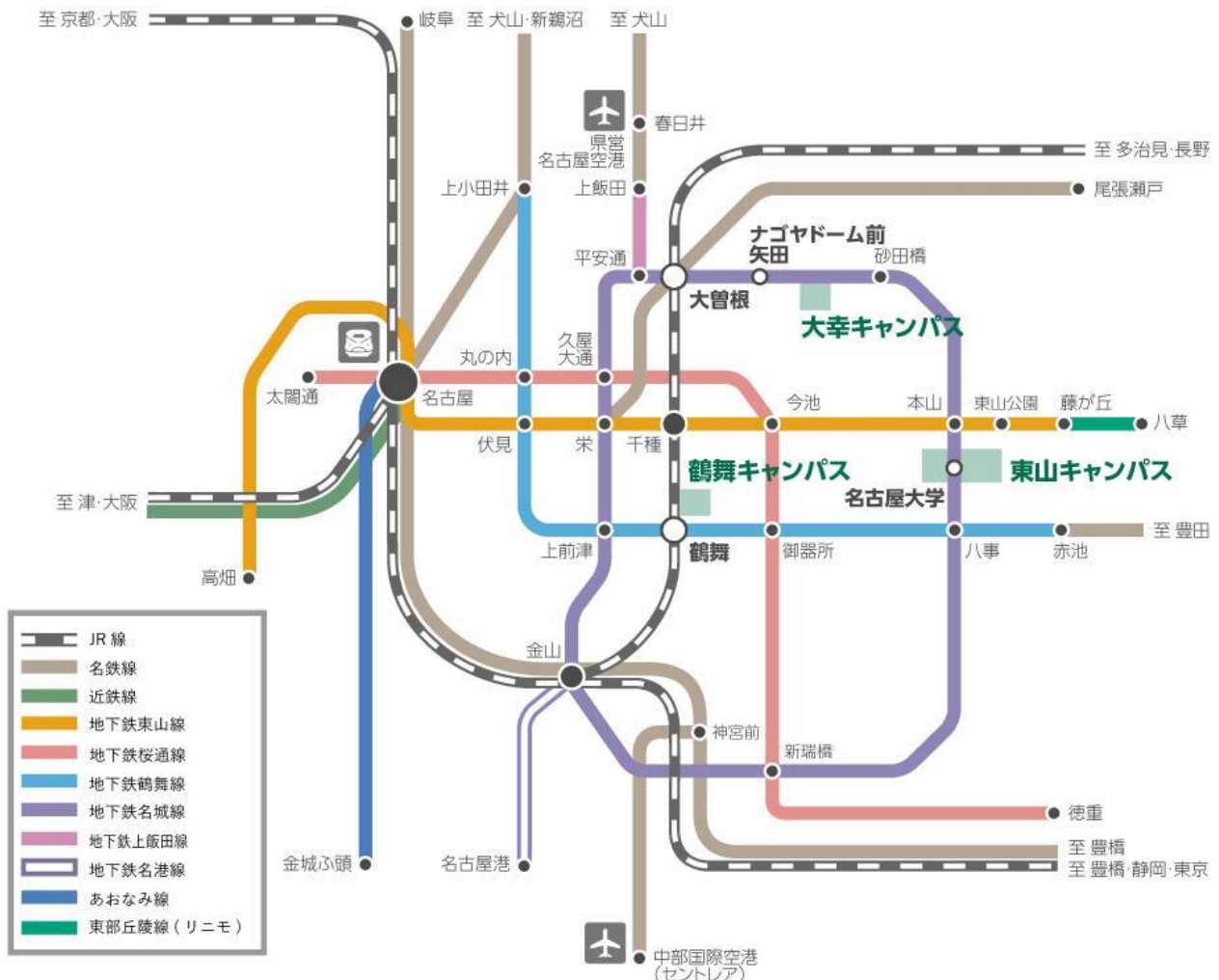
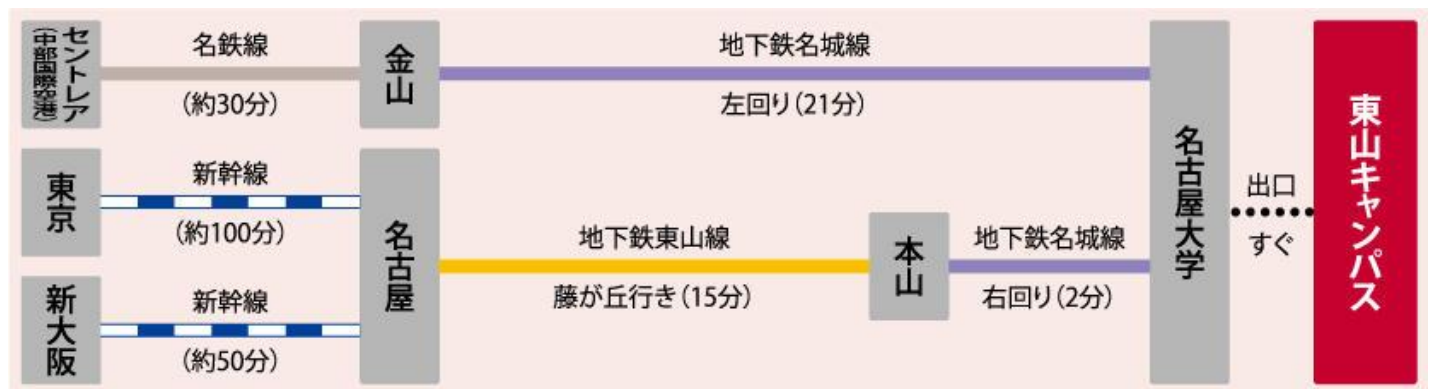
アクセス情報：<https://www.nagoya-u.ac.jp/contact/directions.html>

#### 交通機関案内

自家用車での来場はご遠慮ください。公共交通機関の利用をお願いします。

#### 交通アクセス

地下鉄名城線名古屋大学駅下車すぐ





# 地下鉄名古屋大学駅改札から総合受付までの経路

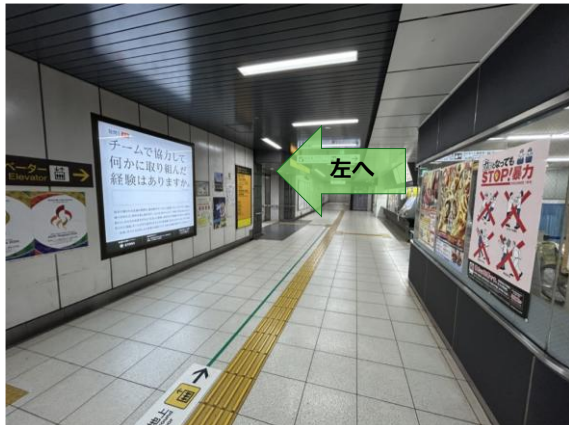
①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



## 会場案内図

### 【キャンパスマップ】

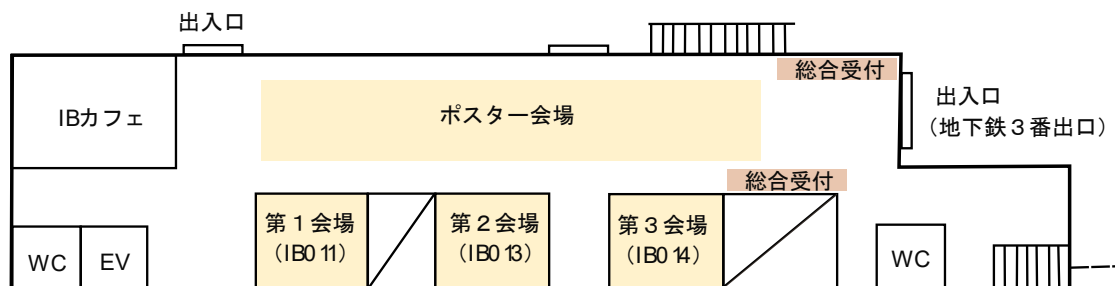
#### 名古屋大学東山キャンパス案内図



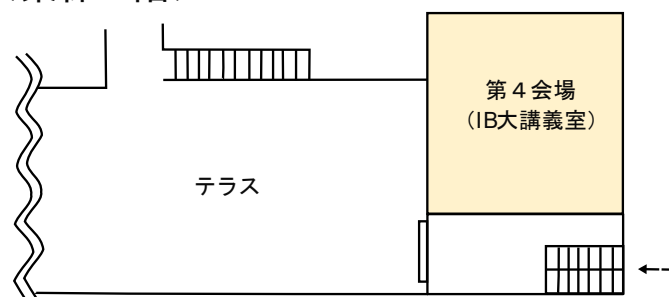
### 【会場マップ】

#### 1. IB電子情報館

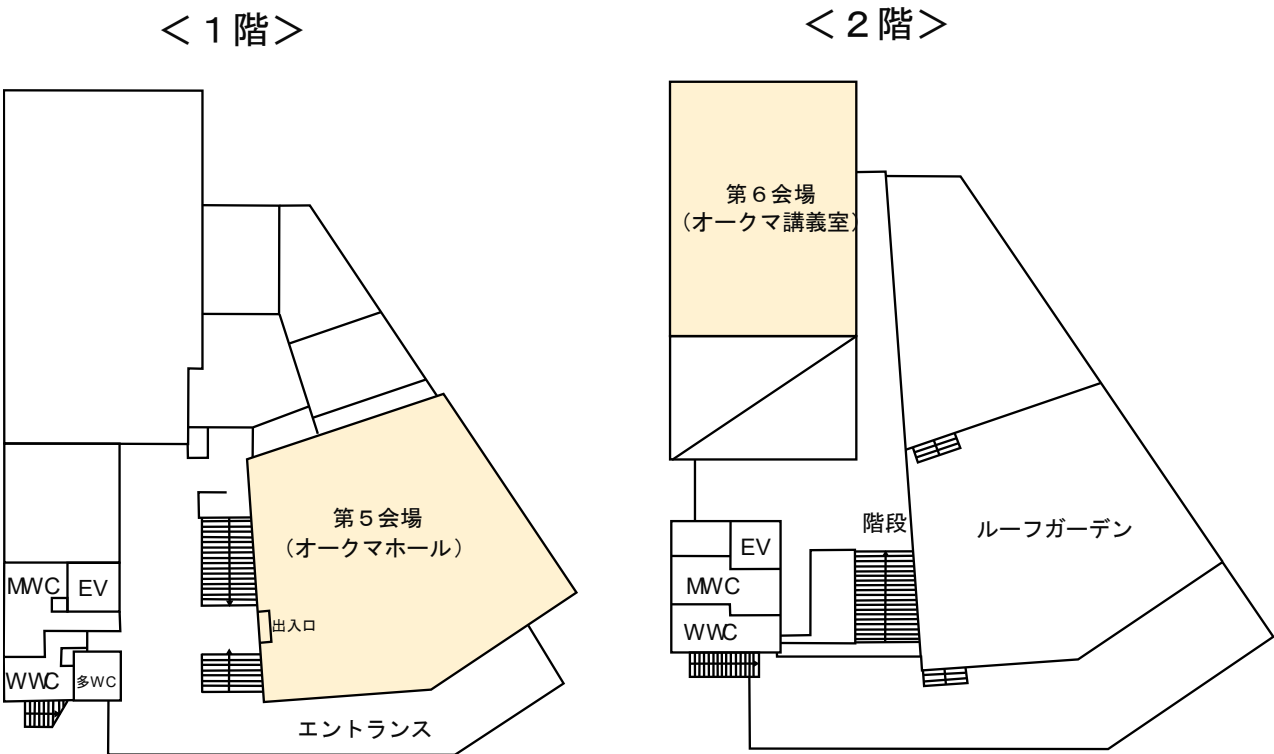
##### <中棟 1階>



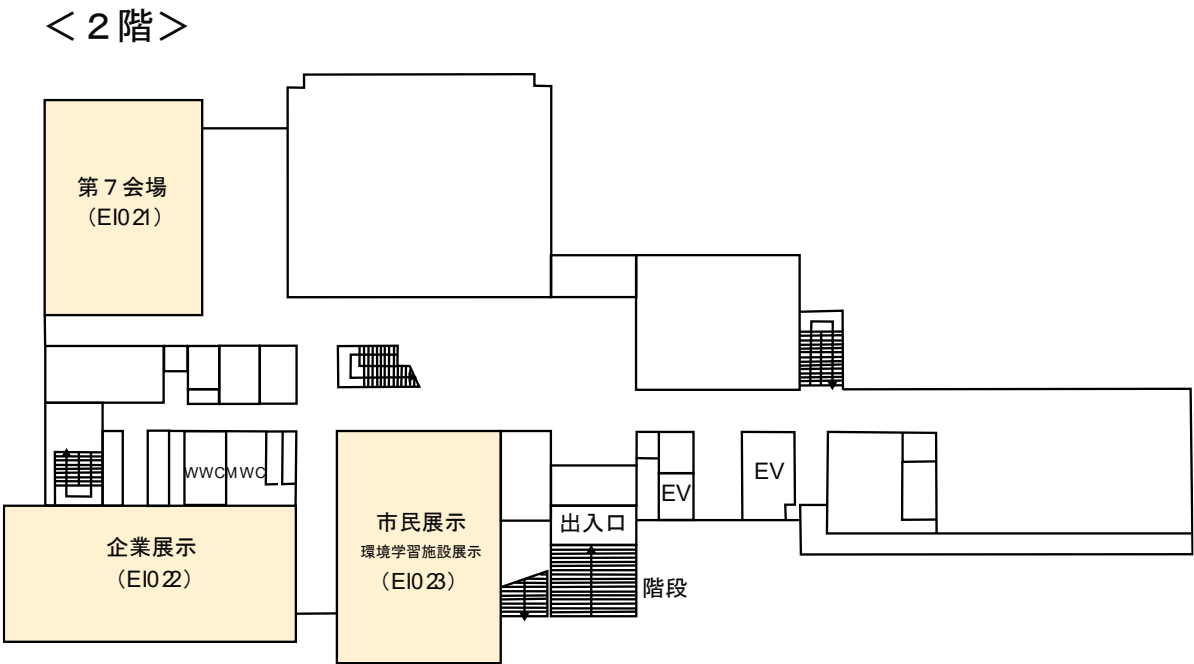
##### <東棟 2階>



2. オークマ機械工作工学館



3. EI創発工学館





	会場	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第7会場	ポスター会場	企業展示	市民展示	環境学習 施設展示	受付	施設見学会
	部屋	IB電子情報館 中棟1F IB011	IB電子情報館 中棟1F IB013	IB電子情報館 中棟1F IB014	IB電子情報館 東棟2F 大講義室	オークマ工作 機械工学館 1F ホール	オークマ工作 機械工学館 2F 講義室	EI創発工学館 2F EI021	IB電子情報館 中棟1F 廊下	EI創発工学館 2F EI022	EI創発工学館 2F EI023		IB電子情報館 中棟1F IB015	
1 日 目	9:30-10:45		9:30-10:45 C6: 食品廃棄物・ 汚泥・有機性廃棄 物	9:30-10:45 C8: メタン発酵(1)	9:30-10:45 D1: 焼却(1)	9:30-10:45 E2: 浸出水・発生 ガス		9:30-10:45 F1: 有害廃棄物お よびその無害化処 理		10:00開始	10:00開始	10:00開始	8:45～	
	11:00-12:30	11:00-12:30 A3: 住民意識・環 境教育・海外事例	11:00-12:15 C7: 有機性廃棄物	11:00-12:15 D4: ガス化溶融・ 灰溶融・溶融スラ グ・熱処理	11:00-12:15 D2: 焼却(2)	11:00-12:15 E3: 有害物質挙 動・早期安定化・ 不法投棄		11:00-12:15 F2: 有害廃棄物の リスク管理						
		昼食休憩					13:00-15:00							
	13:30-15:00	13:30-15:00 A2: 物質フロー・経 済的手法	13:30-15:00 B4: ごみ文化・歴 史	13:30-15:00 C1: 容器包装およ びプラスチック(1)	13:30-15:00 D6: 発電・熱利用	13:30-15:00 E1: 最終処分場の 構造設計・維持管 理・海面埋立	国際シンポジウム	13:30-15:00 C9: メタン発酵(2)						
	15:15-16:45		15:15-16:45 B1: 廃棄物管理・ 計画(1)	15:15-16:45 C2: 容器包装およ びプラスチック(2)	15:15-16:45 D7: 焼却主灰・飛 灰	15:15-16:45 B5: LCA・低炭素 社会	15:15-16:45 市民フォーラム (消費者市民 研究部会)	15:15-16:45 C10: 堆肥化・飼料 化・バイオガス化・ 燃料化	ポスターセッション1 55件		18:00終了	18:00終了	18:00終了	
	17:00-18:15													

2 日 目	9:00-10:30	9:00-10:15 C3: 自動車・電池・ 廃電気電子製品	9:00-10:30 C4: 建設廃棄物・ 副産物	9:00-10:30 D5: 排ガス処理・ 監視	9:00-10:30 B3: 災害廃棄物の 管理・計画	9:00-10:30 ごみ文化・歴史研 究部会	9:00-10:30 A1: ごみ発生・排 出抑制		9:00開始	9:00開始	9:00開始	8:30～	
	10:45-12:15	10:45-12:15 C11: 有価物の分 離回収	10:45-12:15 C5: 無機性廃棄 物・災害廃棄物	10:45-12:00 D3: 熱分解・炭化・ ガス化	10:45-12:15 B2: 廃棄物管理・ 計画(2)	10:45-12:15 環境学習フォーラ ム(環境学習施設 研究会)	10:45-12:15 A4: 食品ロス・産 業廃棄物・廃棄物 の性状						
		昼食休憩											
	13:00-14:15								ポスターセッション2 54件		14:30終了		14:30終了
	14:30-17:40	特別プログラム(豊田講堂)								17:30終了			
	18:00-20:00	意見交換会(豊田講堂アトリウム・シンポジオン)											

3 日 目	9:00-10:30	全国環境研協議 会研究発表会・廃 棄物試験検査法 部会	物質フロー研究 部会	廃棄物計画研 究部会	バイオマス系廃 棄物研究部会								8:30～	・第1コース(終日): 化石燃料活用事例施設コース ・第2コース(午後半日): 都市近郊型の一般廃棄物焼却 高効率発電施設コース (時刻等情報は個別案内参照)
	10:45-12:15		リサイクル・シス テム技術研究部会	若手の会	埋立処理処分 研究部会									

一般公開・無料  
研究部会

	Venue	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	Poster	Sponsor exhibition	Citizen exhibition	Env study facility exhibition	Reception desk	Facility visits
	Room	IB Building 1F IB011	IB Building 1F IB013	IB Building 1F IB014	IB Building 2F Lecture Hall	Okuma Building 1F Okuma Hall	Okuma Building 2F Lecture Room	EI Building 2F EI021	IB Building 1F Corridor	EI Building 2F EI022	EI Building 2F EI023		IB Building 1F IB015	
D a y  1	9:30-10:45		9:30-10:45 C6: Food waste/Sludge/Organic waste	9:30-10:45 C8: Methane fermentation (1)	9:30-10:45 D1: Incineration (1)	9:30-10:45 E2: Landfill leachate and gas generation		9:30-10:45 F1: Harmful waste and its detoxification treatment		10:00 Start	10:00 Start	10:00 Start	8:45~	
	11:00-12:30	11:00-12:30 A3: Public awareness/Environ. education/Overseas cases	11:00-12:15 C7: Organic waste	11:00-12:15 D4: Gasification melting, ash melting, molten slag and heat treatment	11:00-12:15 D2: Incineration (2)	11:00-12:15 E3: Substance behavior, accelerated stabilization and illegal dumping		11:00-12:15 F2: Harmful waste risk management						
		Lunch												
	13:30-15:00	13:30-15:00 A2: Material flow/Economic methods	13:30-15:00 B4: Waste Culture/History	13:30-15:00 C1: Containers, packaging and plastics (1)	13:30-15:00 D6: Power generation/Heat utilization	13:30-15:00 E1: Landfill structure, design, maintenance	13:00-15:00 International Symposium	13:30-15:00 C9: Methane fermentation (2)						
	15:15-16:45		15:15-16:45 B1: Waste Management and Planning (1)	15:15-16:45 C2: Containers, packaging and plastics (2)	15:15-16:45 D7: Incineration bottom ash and fly ash	15:15-16:45 B5: LCA/Low-carbon society	15:15-16:45 Citizen Forum	15:15-16:45 C10: Composting, animal feed, biogasification, and fuel production						
	17:00-18:15								Poster Session 1 55 posters	18:00 End	18:00 End	18:00 End		

D a y  2	9:00-10:30		9:00-10:15 C3: Automobiles, batteries and E-waste	9:00-10:30 C4: Construction waste and by-products	9:00-10:30 D5: Exhaust gas treatment and monitoring	9:00-10:30 B3: Disaster waste management and planning	9:00-10:30 Waste Culture/History GM	9:00-10:30 A1: Reducing waste generation and discharge		9:00 Start	9:00 Start	9:00 Start	8:30~	
	10:45-12:15		10:45-12:15 C11: Recovery of valuables	10:45-12:15 C5: Inorganic waste and disaster waste	10:45-12:00 D3: Pyrolysis, carbonization, and gasification	10:45-12:15 B2: Waste Management and Planning (2)	10:45-12:15 Environmental Study Forum	10:45-12:15 A4: Food waste, industrial waste, and waste characteristics						
		Lunch												
	13:00-14:15								Poster Session 2 54 posters					
	14:30-17:40	Special Program (Toyoda Auditorium)								17:30 End				
	18:00-20:00	Social Meeting (Toyoda Auditorium Atrium and Symposion)												

D a y  3	9:00-10:30	Conference of Institutes for Environ. Studies / Test Method GM	Material Flow GM	Waste Planning GM	Biomass Waste GM								8:30~	<ul style="list-style-type: none"> <li>Course #1 (All day): Fossil fuel utilization example</li> <li>Course #2 (Afternoon only): MSW power generation facility (Refer to the announcement for detailed information.)</li> </ul>
	10:45-12:15		Recycling System/Technology GM	Young Researchers GM	Landfill GM									

Open to the public (Free)
Group Meeting (GM)

## 第 36 研究発表会実行委員会名簿

担当	リーダー	氏名	所属
実行委員長		平山 修久	名古屋大学
副委員長		中野 正樹	名古屋大学
幹事長		白木 裕斗	名古屋大学
広報	◎	浅野 博晶	川崎重工業株式会社
		窪田 光宏	名古屋大学
協賛企業・団体等展示		小倉 涙	荏原環境プラント株式会社
		片山 新太	名古屋大学
		駒見 宗裕	佐藤工業株式会社
	◎	成瀬 一郎	名古屋大学
		山田 和樹	カナデビア株式会社
財務		植木 保昭	愛知工業大学
	◎	山内 淳行	中日本建設コンサルタント株式会社
会場・機材		小林 信介	岐阜大学
	◎	白川 博章	名古屋大学
		三田 理也	日本工営都市空間株式会社
特別プログラム		市野 良一	名古屋大学
		伊藤 秀章	名古屋大学
		河野 修平	日本工営都市空間株式会社
		丹下 まさみ	日本工営都市空間株式会社
	◎	戸谷 満	日本工営都市空間株式会社
市民展示・環境学習施設展示		岡山 朋子	大正大学
	◎	蒲 和宏	元なごや環境大学実行委員会
		山口 俊雄	株式会社アクトリー
		寄高 正剛	名古屋市
施設見学会		神本 祐樹	人間環境大学
		幸節 静奈	刈谷知立環境組合
	◎	大門 裕之	豊橋技術科学大学
		辻 喜礦	液化化対策総括工法協会
		行本 正雄	中部大学
		義家 亮	岐阜大学
意見交換会		小澤 正邦	名古屋大学
		谷川 寛樹	名古屋大学
	◎	長谷川 正利	名古屋大学
学術委員会		石井 一英	北海道大学
		大下 和徹	京都大学
		水原 詞治	龍谷大学
		布浦 鉄兵	東京大学
国際委員会		河井 紘輔	国立環境研究所
学会事務局		三村 正文	廃棄物資源循環学会